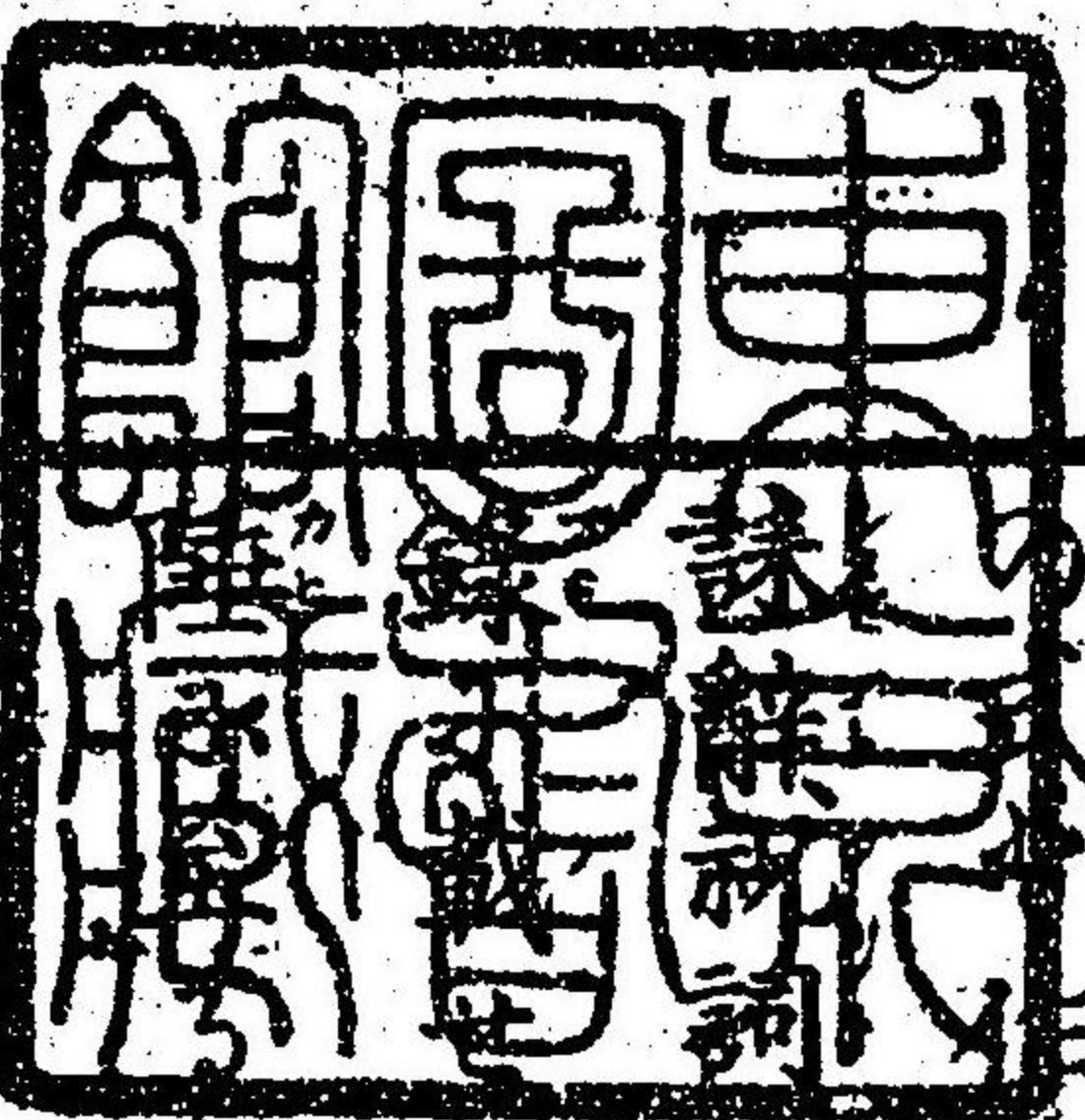


172 456



凡例

此の書ハ皇國上下一般ての葬儀式を立つるをもて主なり。是の故に上巻に其の式や作法を詳記し、下巻に其の法やの考證を擧げて、其の準據る所を明し、且諡號、諡辭、神詞等の作例を示し、然てまた諸葬具、祭器等の圖を附して、其の製造法を知らしむ。是通邑大都より遠境邊まで葬儀一定の式を得るを以ての擧なり。

葬儀凡上中下三等に分ち、又其の三等を各三等に分ち、都べて九等なり。その上の上の祭官二十六人、祭器また充備し、下の下に至りては、祭官三人、祭器また其の從ひて減少す。

○此の凡例は、凡例

らむ。然して上等ハ其の祭式イサリを詳コト記し、中等下等ハ至りてハ祭官祭器の減少ハシカ法のみ舉げて、祭式を洩ヒせり。此ハ上下の差別サバハ有りつゝも、其の祭式ハ一つヒトにして、差異サカヒなきをもちたり。是此の葬儀式の葬儀式やある所以なり。

葬儀ハ全く皇國ハ傳ツハリ來ぬる古法にして、少イサも他邦ヒトクニの事コトを借るものハ非アじ。然シまバ、祭名イサノナ祭器イサノモノ職員等イサノツカサマの名ナや漢語カンゴもて呼び字音ジツオンもて稱ナふるも、應オウじのらぬ事なり。故ユ今イマ悉皆シツケイ古コハ復フして、皇國語ミコクゴもて稱ナふべく改カえたり。

祭名祭器等古名の存ツきるもの無ナきふも非アざれやも、また物も名も共トハ缺漏ケツロれあるも少オららじ。然シる類ルハ或シハ、新ア名ナを

設セけ或シハ新ア名ナ其の器モノを考定コウテイをて、實用ジヤウヨウハ供コふべく調テウへたり。職名シヨクナハ祭主イサノヌシ副祭主ソウイサノヌシを始ハジめ大方オホカタハ漢風カンフウもて稱ナへ來キたり。是等亦モ皇國風ミコクフウハ改カえあり。其の中ナカハ無ナくて叶アハぬ職員シヨクインの關ケけたるも多オし。さる類ルハ實事ジツコトハ就ツきて深コく其の理リを考カウへて、其の職シヨクを設セけ其の名ナを名ナく。妄マカハ新奇シンキヤクを好コトむハ非アじ。

書體シヤクタイ全く皇國語ミコクゴを用ヨウゐて、假字カザ書シきハ書シけり。こゝ皇國純粹ミコクジュイの葬儀イサノケギの本ホン書シあるを以モてなり。然シして、傍ナカハ漢字カンジを附ツへたり。今イマ一世イツセ人ニハ漢語カンゴハ馴ナれつゝも、中ナカハ皇國語ミコクゴハ疎ソきもの此コノ多オかるをもて、文義モンギを解カ易ヤクのら志シをむむやてなり。

新ア設セけあるハ、職名シヨクナの傍ナカハ、葬事イサノケギ大使オウシ、葬事イサノケギ少使シヤウシ、葬事イサノケギ長チヤウ、葬事イサノケギ事ジ

補なきや、強ひて漢字を當てある多し。是まゝ文字不就きて、其の用を知らしむむやてなり

職名は傍不附たり字ハ大方ハ、普通不用る來れるものを用ゐあり。其の中不、調饌師、裝束師など私不定をなるとも多し。又普通不、典禮や以へる字、典儀や書けるは、古書やも不多く見ゆる方不從たり

謚號及祝詞、誄辭等の作例を、普通體不書けるものハ、此の道、未全く開通けざれば、假字書きみても人心不適ふまどく、且文義も通え難らむやてのわざなり。別記を、普通文不書けるも此不由まり

祝詞、誄辭の作例の下不、中等下等、及其の人品不たりて、活用して作くべき例を舉ぐるものハ、祭官若くハ事不練達ず、急しき時不臨みて、猶豫ひ惑ふ事のあらむのやれ、老婆心不出でたるものや、知ま

今世の官職位階等ハ、普通の稱呼不從ひて、字音もて訓まむも難げ無きが如し。然あれども、上世不ハ、皆和訓ありて、雅文不も書けり。今、祝詞、誄辭等不用るむふら、字音不訓み多らむ不ハ、連ねある珠の中不、瓦石の混交まると如く、よなむ成りぬべき。是の故不、未其の事ハ盡し敢へねど、大方不、其の訓を考不て、後不附へたり

此の書總べて正語マサゴトをもてして、音便語マサゴトを用ゐる。其の中中、利うや「おやうや」もうやなや、音便語や、思ゆるもけら、古書コふ、以まだ、正しく、本語もて書けるものを見ざるをもて、其のまゝ書けり

引用書名及年号等ハ普通の稱へのまゝハ音語もて書ける多し。そハ、やまやぶみ、ふるこやぶみ除きてハ、えんぎ一きりやうのぎげりやうの志うげ、ぎ志きちやう、又、ちやうげん、えいちやうなごの如し。これ亦見やすのらむが爲なり

此の書ハ言靈コトタマハ幸マシふ隨タマハ書きつらねたり。其中ハ普通ハ異コトなるもの往ユクあり。そハ、普通ハ、こゝろみ、こゝろみる、ハ

ちあるもちるるや言コトするを、こゝろみ、こゝろみる、ハもちるもちるや、ハひ、普通ハ、ハうづまうつみ、ハうづもれ、うづもるや、ハみ言へるを、ハうづを、うづむうづむるや、ハ言ひ、又、普通ハ、ハつかひ、ハやのみ言するを、ハ時みたりて、ハつのは、ハたまふや、ハ言ひ、又、ハたまふや、ハ大方ハ、ハ通ハ、ハて言へるを、ハ正しく二かある分ちて言コトり。此等ハ、皆、深く考へて、定サれたる詞や、もみて、杜撰マシハ、ハ買コトるハ、ハ非マシ。見むもの、其中、意を得てと

上巻目録

大意 初丁オ
おむむ

初終式 四丁ウ
は

齋主 告 六丁オ
はひぬーふつぐ

齋主 告 喪家 示 六丁ウ
いはひぬーつげをうけてもやふ志免に

葬事使 遊 部 喪家 人 八丁オ
はふりづらひあそびべもやふゆる

喪主 喪婦 定 八丁ウ
もぬーも免をさふむ

喪事長 副 喪事長 定 九丁オ
もをさをもをされそひをさだむ

喪家 就 司 人 定 十丁オ
もやふつくつらさびやをさふむ

送葬 日時 定 十丁ウ
はふりけひやきをささむ

殯 式 十二丁ウ
あらきのわざ
墓所 定 十三丁オ
はかざらるをささむ

地鎮 祭 十三丁ウ
やこ志づれのまつり
墳 掘 十四丁オ
はふりあなをほる

遷 靈 祭 具 十六丁オ
みあまうつーれまつりつもの

飲 具 十八丁オ
をささむつもの
祭 具 廿一丁オ
まつりつもの

送葬 装束 具 廿二丁ウ
はふりのをそひつもの

假喪 屋 假屋 廿六丁オ
かりも や かり や
飲 棺 式 廿七丁オ
をささむわざ

齋 主 喪家 入 三十二丁オ
はひぬーも やふひる

遷 靈 式 三十四丁ウ
みあまうつー乃わざ
みたまひはひまつり

終 祭 式 四十六丁
つひれまつりわざ
立 装 五十五丁
たちとそひ

著 装 五十八丁
つきとそひ
葬 祭 式 六十二丁
はふりまつりわざ

埋 葬 式 六十五丁
うづゑわざ

新 墓 所 装束 六十八丁
にひはのぞころれとそひ

葬 後 破 事 六十八丁
はふりれのちらはらへわざ

葬 後 靈 祭 式 七十丁
はふりれ乃ちのみあまうつりわざ

葬 儀 等 七十一丁
はふりの志なれわらち

下巻目録

祭事 其本
まつりわざはふりわざをせむ

異
こやならびやふあがつらひ 二丁オ

幽界 顯界 勝 事 證
かくりとらころをふすぐれたるこやれあのー 四丁オ

亡 靈 近 在 事 證
なきままればねのちのきみあるこや乃あのー 七丁オ

葬 祭 職 員 考
はふりまつりれつこのさびやれかむぐへ 十丁オ

喪家 屬 職 員 考
もやよつくつこのさびやれかむぐへ 十六丁オ

葬 儀 日 時 考
はふりれひやき乃かむぐへ 十七丁ウ

祭 具 考
まつりつものゝかむぐへ 廿丁オ

靈 前 白 詞 考
みまのまへおまをにこやばやものかむぐへ 二十三丁オ

樂 考
うまれかむぐへ 三十丁

謚 號 上 世 例 證
おくりならかみつとよりのならひなるあのー 三十三丁オ

靈 壘 考
みまのまへられかむぐへ 三十六丁オ

靈 壘 裝 束 考
みまのまへられのそひつものゝかむぐへ 三十七丁オ

歛 具 考
をさゑつものゝかむぐへ 四十丁オ

葬 具 考
はふりつものゝかむぐへ 四十一丁オ

○はふりれのかみつまき 目録

○三

装束具考 四十四丁
をそねひものゝかむぐく

送葬行列考 四十六丁
はふりのつらねかむぐく

東炬燎火用考 五十二丁
たびやかざりびやをもちうるかむぐく

撃鉢事知事考 五十三丁
うちきもてこやをあらするこやのかむぐく

左右法本考 五十三丁
みぎりひたりハのりねもやあるかむぐく

饌手次供考 五十六丁
みけをてつぎてそふるこやのかむぐく

墓所考 五十七丁
はかざころのかむぐく

別記

新撰撰定せる名目ども 五十七丁

拜拍手 六十二丁

謚號撰格 六十五丁

祝詞作例 六種 六十七丁

誄辭 七十二丁

附圖

靈壘装束部 一丁

斂具部 三丁

祭具部 五丁

送葬行粧具部 七丁

○はふりたのきかみつきき 目錄

○四

製花部 十二丁

祭場装束部 十七丁

送葬行列次第 二十三丁

別格上等送葬行列次第 二十四丁

墓所部 三十四丁

以上

葬儀式上巻
はふりのりかみつるき

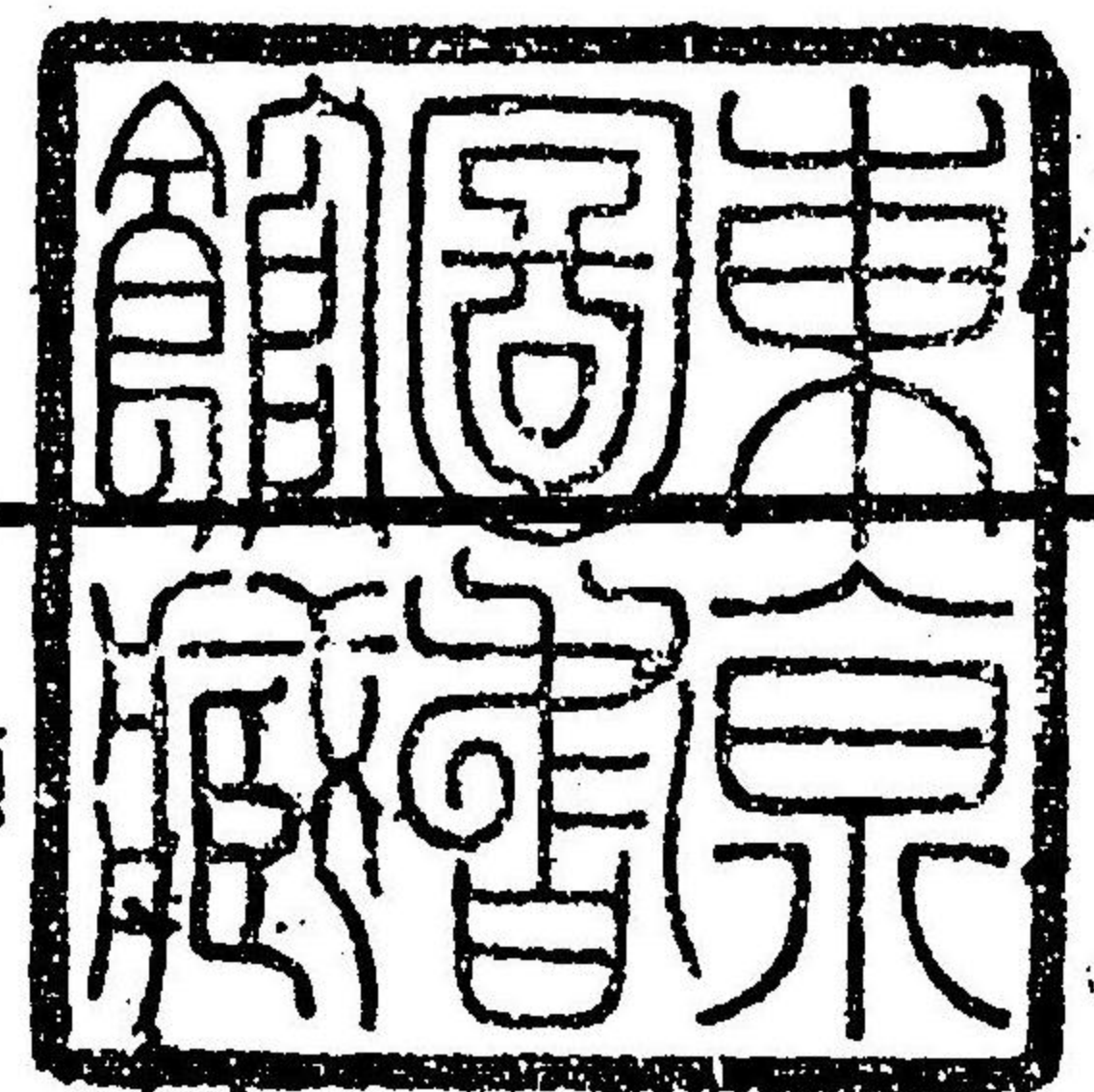
神道管長
かみちちのをさ

従四位 稻葉正邦 著
ひろきなつのもらるいなばのまさくにあらはに

大教正
おわきをー頁のかみ

正七位 權田直助 識
おわきなつのもらるごんだのなわすなをる

大意
かむね



顯幽分界神人界
あらはよかきりをあらわれかみせひせふさかむ字へあつる

事成以來顯界人上
こやとなりふーなりと乃のたあらはよむひせのうへふら

○はふりかみつるき

命 死 云 一 西 事 有 初 然
以のち志ぬや以事ひやつはすかこやなむありそ免々る。志
か、志ぬや以事 事 有 初 葬 儀
葬 儀 はふりや以ふこと何るをりて、そのわざのさあまりあり
はふりや以ふこと何るをりて、そのわざのさあまりあり
て、寄るきふみやもふみやあるごとや。以まそは、寄るきふ
みやもふみやあるおもふみや、以ま乃をつくに、おこなはる
こやごもやを、つらこふ、かむのへ何のせて、かあらず
も、かあるづきこやありぞや、おがあるこやごもやをやりえ
らびて、そのはりをさあむるふなむ。こに、そのこや或は
其 法式 定 爰 其 事 言
斯 有 道 理 所 思 事 等 取 撰
等 熱 參 考 必
所 見 趣 今 現 所 行
古 書 等 所 見 如 今 其 古 書
所 見 今 現 所 行

むふまづ、ひや乃こはをふるれ以づる、そやつ以のまをり
以ふべし。そを、そはなこのふありや、何るものか、かみも、心や、
とろづ乃そのも、こやごに、みば、一らはむすびののみ、乃く
一びふた、可ある、みあまふをりてなや、以づることや、以るさら
ふ、こや、何けするまでふあらばなむ。されば、あはつるみ、くに
つかみ、やちをろづは、このみ、あち、みな、そは、おや、こふ、むすび
のかみ、は、むすむのみ、たを、そなへ、ざるか、み、ま、さ、ざるか
り。な、お、は、ひ、や、ち、さ、ら、なり。い、き、や、い、たるを、の、こ、を
先 人 此 世 産 出 原 由
云 世 間 在 在 神 人
萬 物 志 三 柱 造 化 神 靈
妙 靈 德 因 生 出 今 更
言 舉 在 然 天 神 地
祇 八 百 万 神 等 其 分 造 化
神 産 靈 靈 德 具 備 神 坐
猶 言 人 更 生 生 物 子
○はふりやのこやなむ

○はふりやのこやなむ ○二

産穀物始草木諸花咲實
 うみたなつをのははくさきをろくははなさきみを
 結 物 其 物 受得 産 靈
 むすぶなびみふそむをのそ乃ものうけえあるむすびの
 靈 德 因 然 人 子 産 隨
 みあまふらることやあり。あれのあれどもひやのこをうむふこ
 意 生 得 其 即 人
 ろれするふなすこやをえざらるれそれすあいちひやなれ
 神 其 受得 賜 靈 德 言 知 高
 があり。かみちそのう々えたるへるみあまはひあらびた
 貴 奇 異 坐 故 御 自 身
 へくあふやく、えく阿やくするが由あみみづのらの
 上 更 申 人 物 御 意 隨
 うへちさらふもまをさびひやおもをのにもみこころのま
 授 賜 斯 在 人 子 産 人
 らみさづけたまふこやなり。かくまびひや乃こをうむらひ

事 人 事 非 神 幸 非
 や乃わさふして、もやけわさふあらびかむさちみあらざれ
 得 辨 抑 此 神 幸
 ばえらまざることやをわきまふづ。そもく、こ乃かむさち
 事 造 化 神 其 大 本 幸 賜 其
 のこやは一もむすびはかみそ乃おおもや成ありたまひそ
 持 分 國 里 鎮 産 坐 産 土
 をもちわけてらにぶくさやぶくみあづまりるはうぶす
 神 掌 賜 靈 幸 賜
 なのかみ乃ありたまひみあまちはへたるふこやなり。こハ
 産 土 神 祈 子 持 例 少
 うぶすなのかみふ心のりて、こをもちるをすくなら
 以 灼 然 世 間 風 俗 子 産
 ざるをてきるこのやたらなるのならひやしてこらまるま
 必 産 幸 參 諸 生 先 神
 ばかあらびうぶすあまらるでせさせておひさきかたて、かむ

幸祈禱奉 其原由依
さちをこひねぎまつるなるを、そおもむのいはれふらりて、

然有斯在人 死花 落根
まのちなるべし。かきびひや乃志ぬれば、はなもちてね

ふかへるこやわりぬて、そはま靈魂 以ち、やうて、うぶすおは

かみのみ神許 入參 まるで、そのこみ乃かむはうりみなりて、か

みのみ府政 乃み政事 入りて、かみやなるこやなり。

そ乃みまつり政事 大約七 種其 一

甚清澄明 高天原神 許
いなきさくすみあきらのある、たのまはらけかみのみも

かみのみ上 なるあり二 なる有 功神 のかみやて、ま正

さ神 一列 きかみ乃つらふひきて、あ永 幸福 得得

り三 みつ此 ぬら世 ころ神 ぬ崇 へて、かみやあ無 ま無 じ無 ころ無 ぬら無

り四 ころ再 ぬら此 び世 こ人 ね生 のひや生 ころ生 ま生 ね生 志生 ぬら生 なる生

つ五 くに妖 しま神 づか邪 み神 へて、ま邪 づ邪 ころ邪 一邪 きかみ神 のつらふひれ

て、ひ善 ち知 ら患 ぬら善 ころ得 一得 み得 をえ得 一得 なる六 なる六 なる六 なる六 なる六

の魚 う虫 を生 む生 一生 なる生 なる生 なる生 なる生 なる生 なる生 なる生 なる生

こ目 免汚 き穢 き夜 みる見 なる國 なる遠 なる運 なる此 なる皆 なる此

乃世 ぢ人 ひ有 や間 ころ身 ぬら行 なる狀 なる善 なる惡 なる善 なる惡

○はよりれのぞかみつまき ○ 四

因 品 取 分 政 賜 事

たりて、志なきにやりわたりてまつりごちたるふこやうぞ、

おもひはうらるる。おをそを凡一づつらさやあるをのり、これ此

らねこやををさくわきりつて、こころのそこふをさるおあさ

らむ限うぎりら、いはひぬ主一や一て、はふりわざぶあづつりた

りやも、うからやのらみ、まこやををつくさ盡一むることやをうづ

あらび、また、うのらやのらも、これら此のこやををさるざらむ限

まりら、おもらうみ、おごそあゆや、こころを盡一たりやも、

いふづらふ、たうら財たつひや、すのみめて、ふことや、りこやあり

みら、かな適布づつらざるをや、そ其つぎくふ言者事やうも

見知てゑる一

は初免終のわざ式

人 疾 病 重 命 死 親 戚 兄 弟 頭

ひや、やまもおもく、いのち志なきをせ親づうからはらから、ま

くらぶふらり、何やぶふつやひて、やま病ひをさす助、ふことやを

つと盡一て、まもりせむら彌ふ息たえあ絶び悲あ歎一

みの中のふも、ひやふあうた比登布多歌兼てか通一やあ唱ぶ數一か數び

おちく多やあ唱るは此ざ重ん魂一和ま將あ來ま來をあ和ご將を來あ來ぐ來さ來ま來

○はふらみのさかぬいさ
○五

幸 福 得 最 尊 神 言 然 家
ひさきはひをえーむるいやたふやきこのむごやをり。さて、い

へびや、あるハ、やちきうからのうち、むやり常たりて、ほらひ
人 或 達 親 戚 内 一 人 二 人 盥

えちそぎーて、つーみかーこみて、いづはかむごこむ
漱 謹 恐 家 神 床 向

ひをろぎみて、かばねあ、ころとけさちつきて、いまーも、い
拜 姓 名 此 世 幸 盡 今 命

のち志にふるよーをつごまつりて、ふあーびをろぎみてを
死 趣 告 再 拜 手

とつうちて、またをろぎみ、おもおひをかけて、みまへちの
四 拍 復 拜 面 覆 挂 神 前 近

くすゝみて、をろぎみて、かむみやのみやをさーすこーさり
進 拜 神 宮 戸 閉 少 去

て、ふたをろぎみたちて、かみ乃まをやざーて、ひらくこやを
拜 立 神 室 鎖 開

やぶむづー。さて、ふた、さまつおやのみあまやのまへふいた
禁 拜 先 祖 聖 屋 前 到

りて、をろぎみて、おなごく、うまごなふづー、志ふあるをーを
拜 同 齋 孫 某 死 趣

つごまつり、おなごくをろぎみて、うち、またをろぎみて、みや
告 同 拜 手 拍 復 拜 戸

よさーて、ありぞく。それより、うぶすなめのみのかむづらさ
閉 退 産 土 神 神 官

みつきて、うぶすな乃かみのみ戸へに、つごまつるべきなり
就 産 土 神 前 告

いはひぬーみづぐ
齋 主 告

いへふ、志にびやあらむふら、かみけくだりのごせん志を
家 死 人 上 條 如 為 畢

て、いはひぬーみたのむべきをーづらさめ、こやのよー枝
齋 主 依 額 教 職 事 由

○はふのひのかみひまき ○六

告華 儀機 類乞 官人
つげてはふりあざむことをきたのみことぶ。つうさびをい

さらあり。またたのきい。いふてま。いへのり。つうさむ

法隨 左右 事順 次經 調調
のりけふふ。ふやもかくも。ことをつらごをりてや。このふ

べ。たぐびをのうへて。ふやまき。このおちやけは。みあき

てけふに。く。える。このやなく。ついでを。つて。ことをや。この

へて。秘怒 熱熱 類類 乞乞
へて、秘もごろふたのみことぶ。

いはひぬ。つげをうけてもや。あきをす

喪家喪 告告 來來 事事 狀狀 委委 曲曲 問問
もや。とりつ。たきあり。たらむ。ふら。このや。乃。さる。をつ。がら。み。や

ひ。や。ま。き。乃。あ。ま。て。は。ご。や。く。こ。や。の。つ。い。で。を。つ。た。ら。む。み。り。す

み。や。ら。ふ。う。べ。な。ふ。べ。さ。て。ま。な。た。の。き。い。へ。あ。る。ち。あ。い。び

や。の。い。へ。み。て。も。は。ふ。り。あ。ざ。を。お。ご。そ。か。に。せ。む。や。す。る。い。へ

み。ち。こ。や。み。な。れ。あ。る。も。の。ふ。た。り。を。え。ら。び。て。は。ふ。り。の。お。ち

づ。う。ひ。そ。ひ。づ。あ。ひ。や。て。は。や。く。さ。つ。あ。い。て。ま。だ。ま。き。ふ

こ。や。を。の。を。や。の。へ。ま。あ。ま。あ。こ。や。ふ。む。や。り。を。え。ら。び。て。あ

そ。び。べ。や。て。さ。つ。あ。は。し。て。あ。ら。ま。け。こ。や。ふ。つ。あ。へ。む

づ。あ。い。び。や。の。い。へ。み。て。ひ。や。な。み。の。は。ふ。り。あ。ざ。な。ら。む

○はふりたのてかみつまき

○七

ふら、もやをり、こころきとたるひやをるねぎひれて、もぬ喪家 才 カ 者 招 入 喪 主
も免をりは初、喪事長喪具製造人送葬整列もをきものつくりびやばふりのつらや
このへむやをえらび、長 撰 其 受持 事業 略そのうたもつこやあざのおがえ
がき、記 葬 具 圖 與 殯はふりつもはるかたがきを何あへ、さてるたあらしきの
わざ、式 穿 墳 法 埋 葬 法 至はふりあなのかりかゝまた、うづ免あざおひあるまで、
かねて、豫 心 得 置 得 有 事 等 懇 切こころえおうで、へえあらぬこやぶもを、ねもごろふ
志免すべし。示 此 等 事 等 見 易 書 取 與これらねこやぶもと、みやにくかきやうりて、あた
ふるおほらざれば、左 事 行 豫 調 置こやぶもくろぐれば、かねて、やうのへお
くを可しやに

はふりづうひあそび部喪家入
はふりのおわづあひ、葬 事 大 使 遊 部 喪 家 入そひづうひ、少 使 遊 部 諸あそびべもろやもふもや
ふいたらば、到 先 親 戚 應 接 懇 事 告まづ、うからふあひて、ねもごろふこやぶをつぐべ
し。さて、葬 事 使 葬 儀 状態 概 略 問 喪はふりづうひは、主 喪 婦 定 喪 事 長 葬 事 補 定 共はふりのさるはあわらゑをやひも
ぬし、主 喪 婦 定 喪 事 長 葬 事 補 定 共も免をさゝゑ、また、もをさゝのそひをさゝたゑて、
もふ、事 議 亡こやぶはうらむこやぶをこふづし。遊 部 殯 式あそびべ、大 略 殯 室 入 仕あらしきのわ
ざのおねむねを示、大 略 殯 室 入 仕あらしきのまへりて、つらむ

○はふりねのぞかみつまき

○ハ

告親戚導 殯室入

ことをつけ、うからふさるべせさせて、はらまのまふらる

喪主 喪婦 定
もぬーも免字さあむ

親 死 子 婦 兄 姉 死 弟 妹
おや志ぬまば、こを免またあふ、あ祿志ぬれば、おやうと、以も

喪主 喪婦 定 素
うやをもぬーも免やさあむるち、もやよりあさかも、こさき

死 婦 而已 時 第子 婦 以
み志に、こ免のみあるやきち、おやごを、を免やをもてすべし。

婦 先 其 子
るた、ち免さきあちて、そのこのみあるやきち、こや、おやむす

以 夫 死 時 妻 喪婦
免やをもてすべし。をうや志ぬるやきち、つま、も免となり。こ

喪主 子 無 時 最 近 親 戚 以
もぬーやななり。こなまきり、らおちのまうからをもてすべ

伯父叔母家

し。をぢをば、いふおはりてきよ、おやうや、いもうやあどきふ

其 下 立 者
るらむよ、そのまもふあつづきをのなまきり、あふ、あ祿た

喪主 喪婦 何 者 死
りやも、もぬーも免やすべし。いづきのを乃志ふたりやも、を

主 喪婦 立 順 序 人 幼 稚 介 借
ぬーも免あつづきついでひや、をさあまきり、さーそ

人 撰 附 幼 少
ひやをえらびてつくべし。をさああらざらひやあてを

女 介 借 婦 但 其
みあふらさーそひををつくべし。たご、そ乃いへあさるに

喪婦 闕 難
たりてち、も免をかくもさるたがな

喪事長喪 事 補 定
もをさをもをさのそひをさあむ

○はらまのまふらる

○九

喪事長喪事補葬儀一切負擔人
 もきさもきさろそひちはふりわざすべとをうけもつひや
 なまびそのらづうるやとろたやすからば。故品高
 ありふてらつねよそらつこのやをされるひやをもて
 此職充庶人
 このつひさふあつぐんだびやほひふてもこやふ、ひく
 配人
 乃こやいもるものあらば、そのひやをもちる、さなきいふ
 何人
 ても、なふびやふてぬこやふなきたるををえらびてあつ
 ぎ。さて、さだまりたるうへふとはふりつあひらあひてよ
 般相議事物整頓
 ろつあひはうりて、こやをのをやうのへむこや、残ちまるとるべ

きさより

喪家屬職員
 もやふつくつひさびやをさかむ
 葬事使喪事長議先送葬整列
 はふりづあひもきさかはありて、るづはふりのつらやとの
 者定何人
 へびやをさかむ。こらなふびやにても、こやふたふづきさの、
 十人 或六人 四人 時宜 隨
 やたり、あるり、むありあるりよたり、やまきのよろきふきた
 之撰此充
 かひて、これをえらびて、これふあつづー つぎふものつく
 製造長 葬具製造人 定 木工 十人
 りのをさまた、ものつくりびやをさかむ。この、たぐみやた
 六人 其分 應
 り、あるら、むあり、そのほやよかた、こ、これなをえらぶ。その、あ

○なまびそのらづうるやとろたやすからば

工 長 其 餘 製 造
ろふ、わざふた々たるものをさやうし、そのおもを、そのつく
りびやうすづー 人 爲 つぎふ、聽 びやふたり、者 二 人 少 わ
のまきひやめてきー 年 つぎよ、樞 ひつぎのをわろよたり、丁 四 人 裝 そを
ひをのくとわろ、はたくり、つぎひのをわろ、丁 五 人 許 たりば、充 置 此 亦 喪 儀 等 隨 其 人員 たり
をほておく。これも、はりのまがふあふあひて、そのかすを
さだむづー。 此 等 人 葬 定 置 これら乃ひやをばやく、さぶあおあざれば、便 よ
りよのらび 宜
葬 儀 日 時 定
はりのひやまふあふあむ

葬 事 使 喪 事 長 葬 日 定
はふりづあひや、もをさやうは、葬 日 定 たりて、はりのひをさあむ。そ
いまづ、殯 式 何 日 間 其 過 某 あらきをゆくあ、のほひだや、其 定 して、それすぎてもより、そ
まのつき、そのひを、はりのひやさあむづー。 月 某 日 葬 日 定 但 中 た、等 下 等 なる
つーな、等 下 等 志もつーな、殯 日 數 若 あらきありて、其 翌 日 定 あらきのひあずを、若 も
いふあ、三日 若 一とらつあや、二 日 して、そのあくるひやさあむ、其 翌 日 定 また、
甚 下 等 以や、喪 家 内 外 事 も志もつ志をみありて、いもやのうちや、運 隨 便 宜 任 殯 式 葬 儀 け、一 こや乃
はこびふ志たがひ、日 爲 止 事 得 時 黃 昏 たよりふまゝせて、其 翌 日 定 あらきも、其 翌 日 定 はりも、其 翌 日 定 ひ
やつひやするも、其 翌 日 定 やむこやをえざるなり。 其 翌 日 定 さて、其 翌 日 定 やまひ、其 翌 日 定 たその

○はりのひやまふあふあむ

為定 然 墓所 遠 或
 まよりするをさぶらふを望む。其のまじらむはらやころやわく、あ
喪家 望 依 午時過 何時
 るともやのくぞみふりてらうますぶるところよりい、いつ
難 某 時 定 此
 みてもさるたがふやして、それのやまきとさたむべ。こま
等 速 定 置 萬 般 便 惡
 ら、はやくさぶらふをおざれば、よろづたよりい、きものあり
 あらき乃あざ
殯 式

熱 離 仍 其 尸 慕 速 放
 つらゝゝおもふひや、いのちをいまば、たるゝひそのみま
其 近 傍 守 居 物 所 見
 はあるれども、なまそのかばねを志あひて、ややくさらば
其 近 傍 守 居 物 所 見
 て、その阿ありにるもらひをるこや、そのみみえたるがこや

然 親 戚 兄 弟 殯 室 忌 籠 其
 一。さきばうからはらから、あらきのまふひみごもりて、それ
靈 魂 傍 在 看 行 意 得 專
 みるまのかたへおありて、みそなわすこゝろえよて、もいら
生 者 事 如 慎 敬 萬 事 懸
 いたるひやみつゝあるごやく、つゝゝみるやまひ、よろづ祿
懃 仕 其 先 逆 部 儀 清
 もごらふつゝあづ。そらまづあそびづみはうりて、きよき
謂 以 死 者 顏 覆 尸 平
 きぬをもて、あふびやのかちをおわひかばねをたひらかふ
直 枕 卷 清 服 著 衾
 たぐゝゝ、まくらをまのせ、きよきころもをきせ、ふすま絨
掛 傍 刀 臺 置 守 刀 掛 右
 かけかゝるいらみ、かゝるあけをおき、まもりがたあをかけ、み
左 居 並 拜 短 手 拜
 ぎりひがりふゐならびて、をろがみ、あのびでうら、またをろ

○はふりれのやかみしき

ぢみーて、つゝ志みなるべ。あそびべ、そのあひふもをさ
慎 居 遊 部 其 間 喪 事 長
 せはうりて、もろくくやうりやのつて、まくらべふつく志を
議 諸 具 整 調 枕 邊 案
居 神 白 木 綿 挂 垂 左 右 立
 すゑ、まさのきふ、あらふふけあきて、みぎうひふりみたて
並 酒 饌 甘 菜 辛 菜 魚 水 鹽 平生 好
 ならべ、みきみけあまあ、からあうを、みづあ、またつねふこ
物 至 案 上 置 足
 のをりーそのふひあるまで、ふつく志のうへふおきあらい
供 奉 諸 率 相 共 拜
 して、そなくまつり、さてもろくくをみて、あひやもふをろが
手 拍 比 登 布 多 歌 百 遍 唱
 みてうらひやふあうたをもくたびはうりやなふべ。あさ
夕 更 何時 唱 此 殯 室 作
 かふひさらなり、いつめてもやあふべ。これをあらまきのあ

法 此 三日 三夜 若 七 日 七夜 家
 さやふふこれい、みうみよ、もくくひ、あぬあなよ、い
定 隨 幾 日 如 此 勤
 のさあえのまふく、いくあめても、かく乃どやく、つやをて
怠 無
 おこあるこやああるべー

墓所 定
はうがころをさあむ

墓 所 樹 繁 茂 高 清 濕 氣 燥
 はうがころら、きい志みあち、たあくまきま、みづなかく、か
地 可 既 孫 定
 きたるやころをさあやす、すでふ、えらびさだをたらむふり、
其 堅 横 廣 度 四 隅 塚 標
 そのたて、このむろさをはうりて、よすみのさあひふある
杭 立 然 定 終 其 處 祭 場
 ーぐひをあつべ。あさだををばらば、そこをまつりやこ

○はふり此のどかみつまき

るやーてやとぬーはらみをまつりて、そののをもつはは
所 恙 無 事 無 幸
りやころ、をかくこやなくさまからむこやをらひるづー^祈

地 鎮 祭
やとまづえ乃まつり

まつりやころけさすみふ、ひみぶをさーたて、きりくを
祭 場 四隅 齋 竹 抽 立 端 出 之
なをひきわぬ、そのうちふあらごもをーき、そのお
繩 引 且 其 内 新 薦 敷 其 奥
べふかむやをまほ、むもろぎをたて、さかきふゆふ志で
方 神 床 設 神 籬 立 神 木 綿 垂
、帝たやころふさーたて、そのすへふ、み々づく志をす
ニ 所 抽 立 其 前 饌 菜 居
齋 主 齋 部 祭 場 進 先 揖
ひはひぬ、いはひべ、まつりやころふす、む まらるやび

す つぎふはらへのことばをのる つぎふはらへわぎ^{行事}

つぎふのむをぎわぎ つぎふ、みきみらをそなふ つぎふ^次

けりやをのる つぎふ、をろぶみり つぎふ、みけみきをさ^{酒 撤}

ぐ つぎふ、かみあがわぎ つぎふ、さよりで つぎふ、まの^退

とさる つぎふ、ひをろぎならびふ、よそひをのをさる^撤

此 新 定 時 作法 然 無 代々
ころ、あらむにさむむるやき乃わざなり。さなくして、と

基 所 用 此 及
のはらやころをもちぬむふら、これふおよび

瓊 堀
はふりあなををる

○はふりあなをかみつぎ

墳 深 善 凡 六尺
 はふりあなとふりまをさしけし。おとそむさああまりなる
 大 檜 大 隨 其
 づ。おちきさちおちぎこのおちきさふ志あるむてそれよ
 一尺 大 檜 無
 りひやさのほりおちきなるづ。おちぎこなきやまひ
 大 隨 仍 大
 つぎ乃おちきさふ志あるひて、それよりなちおちきあるべ
 其 底 炭 入 桙 以 搗 堅 檜
 して、そ乃そこふすみを以れて、ちこもてつきかあるて、お
 下 居 其 外 空 所
 ちぎををろすあて、そのやのすきある空ところふ、またす
 入 土 入 桙 以 搗 堅
 みを以れ、つちを以れ、つちこもてつきこのたむづ。た
 石 檜 炭 入 及 然 仕 畢
 づ。おちぎこちからむみち、すみハゆるふおとばじ。おちぎの志を
 土 墳 口 三 尺
 なば、わりあなたるつちを、あなのくちをり、みぎこのあまのり、
 掘 除 置 然
 ちくかまのけおくづ。おちぎのらざれが、うづをわび、玉さまた
 右 仕 畢 裝 束 物 設 置
 げあり。みぎ志をへたらむみち、をそわひ、をのままけおくづ
 芝 一 大 四 方 許 墳 上 置 料
 志が ひやつ志よおもがのり、つのおうへおおのむあ
 青 竹 凡 十 本 竹 虎
 免たり あをた々 おとそむもやばのり、をのりおもちう
 抗 丈 五 尺 十 本 竹 虎
 らひ たけつさこのむのり、やもともがのりおもちう は 柱
 丈 五 尺 門 柱
 いら た々つさこのばのり、かやのはいらあり ない 二
 把 二 搗 繩 四 條 一 丈 三 尺
 ちるが ふたよりない ちすぢ、ひやつ志あよりみさか

○はふりれのさかみつまき
 ○十五

炭粉 若干 石灰 若干 右種
すみのこ ころばく しいばひ ころばく みぎろくさ

かまじをの、はらぎころふそなくおくべし

ちなみふゆふかみのご空くあなふをさむるハ、なつよ

りこなるおなならひみて、ふるくハなまきこやなり。ふるく

らみなつちのうへをあらし、つきころもをておなやと、ひつ

ぎをすきて、そはをぐりのつちをあらあげてこやまのご

やぐつきあげて、つこやあせるものなり。そのふるきふみ

やもみみふはあ、ひよあるふるきはよみふさげまなまのあ

りさまをみてみるべし。おやおごそのなるこやなり。もの

たらむこやとのあらむゆへて、いまも、まのあらま

あーきこやなり。みづたすくあくてゆやと

みたまりつー乃まつりつもは

みるまーろ かぐみをもちうる だたいきりのりやん。つき

みだま、つぎ、いーをもちうべし。

うろはーく、たち、たまのご

きこづの、をみあ、くー、かみづきのあぐひつ、糸み、を、で、も

○はふりせのやかみつまき

○十六

たりし物用をもちうるものなり。たぐい、かゝるちのおかき大
 あるい、さまゝ難なるがわち多きばち小ひさま物そのをえら撰ぶべし。
 いづきも何きよ清みづも水て、い何くあ通びもあ洗らひて、そ穢くけ穢づ
 れを去さるべきなり

みる璽ま璽ちろぶ囊くら 璽みた璽ま璽ろを藏らさむ囊る多大くら大なり。や
和ま錦ぬ白に麻きぬ布あ裏さぬ附のを製う製ら製ふ製つ製け製て製つく製る。ま
 た、白絹ちろ用ぶ難ぬ難をも難ち難ら難る難も難さ難る難た難ぐ難な難り。か形状ゝ形状み璽たま璽
璽ち璽ろ璽ぶ璽た璽ぐ璽ひ大て、お大わ大き大く大も大ち小ひ小さ小く小も小な長が長く長も短み短

かくもつくるべし

同お同な同ど同く同ち同ろ同ぶ同た同ぐ同い 璽みた璽ま璽ち璽ろ璽の下ち下ろ下ふ下ち下く下い下ち下ろ下ぶ下た下ぐ下い下

綿入ら製ぎ製ぬ製ふ製わ製る製を製い製れ製て製つ製く製る。お大わ大き大さ大み璽ま璽ろ璽ぶ璽た璽ぐ璽い璽

たぐい

通代ひ通代ー通代ろ通代を藏ら藏さ藏む藏る置も此つ此な大り大。こ大れ大も大、お大わ大き大さ大

璽は璽み璽ま璽ー璽ろ璽ふ璽ち璽ろ璽ぶ璽た璽ぐ璽ひ璽て璽つ璽く璽る。ひ製ち製き製を以も製て製つ製く製る

べし

同お同な同ど同く同ち同ろ同ぶ同た同ぐ同い 通代ひ通代ー通代ろ通代を挂ら挂さ挂む挂る把も把つ把な把り把。こ把れ把も把、お把わ把き把さ把

○はよりけのてかみつまき

白麻 裏附製
志らあさをうらふつけてつくる

船代 種代 藏具 通代 大
ふなしろ ひしろをさむるものなり。ひしろのおきさ

随 廣 檜 製 今 辛
ふ志あがひて、やうひろく、ひのきよてつくる。いまハから

櫃形 製 便 宜
ひつがゑにつくるをよりよーやい

靈屋 靈 藏 官 大 船
みあやや みあやーろをさむるみやなり。おわきさふな

代 隨 屋 非 附 製
志ろふ志あがひやねやびらをつけてつくる

靈屋 業 一 脚 靈 屋 載 業
みあややづく志 ひやひら、みたまやをのするつく志なり

靈床 一 脚 靈 屋 載 臺
みたまやと ひやひら、みあややをのするくらなり

是等 製 法 大 總 下
こまらそけつくりかた、まゑおわきさなやハ、すべて、志も

圖 卷 妻
のかたがまきたまきふくわーくするをみづー

斂 具
をさえつもの

棺 披 以 製 正 式 然 基
ひつぎ まきをもてつくるを、アさーまきけりやにされ、以

得 難 松 或 樅 代 製 前
やえがゑるまきばまつほるハもみなやふかへてつくりま

方 印 附 是 其 製 法 如
へのあふ志るーをつく。こまも、そのつくりかたのごや

圖 見 知 石 棺 古
まゑ、かゑるまきをみて志るべー。アた、いーまきもゑるくあり。

今 用 其 家 例 隨
いまもちうるも、そけいへーくのならひふ志たがひてよ

○はふかたのこがみづまき

し。また、近ちのきころ、比かなまきをもちうるものもあるよーなり。こ
ハ、市よーつふたを例なまきとやなまきとも、さるたげなる

べー

ひつぎおちひ棺 ひつぎふかく挂う止ハおちひ祀なり。おちまき犬

ひつぎふ棺志随あ白ぶ絹。志白ら絹ぎぬ布も布ーくハぬ布のふてつくる製

ひ忌み湯目を桶け 志尸ら尸ばねを拭ふ湯く入ゆ桶を木ひ何る桶を木け何なり。ま木ハ何な

ふ拭く中ても中ら中る中ー

ふ拭ま中ぬ中け 志尸ら尸ばねを拭ふ中く中ぬ中乃中なり。志白ら白ぎぬ絹を用もち用うる用

も難さ難る難た難げ難な難ー

は親ぶ衣つき長 た膝け袴ハ袴ひ袴ぎ袴や袴ひ袴や袴ー袴く袴び袴。志白ら白ぎ絹ぬ白志白ら白ぬ布の随こ

く意ろ意ふ意ま意あ意す意

志内あ衣ぎ常 つ服ね同の同ころ同も同に同お同な同ド同く同つ同く同る同。志製ら製ぎ製ぬ白ふ絹て絹も絹。

志白ら布ぬ布の布に布て布も布よ布ろ布ー

う表は衣ぎ内 志内あ衣ぎ同お同ち同な同ド同く同つ同く同る同 製

み右ぎ二け服ふ秋あ冬つ裕の春ころ夏も夏ハ夏あ夏き夏ふ夏ゆ夏ハ夏あ夏は夏せ夏は夏る夏な夏つ夏ら夏。

ひ單や用ハ用を用もち用ら用う用

たふさぎ 禪 幅長常 はぶなごさつねのごや。きぬぬのころふま 如 絹 布 隨 意
かしてもちう 用

あび 帯 布 ぬのみても、きぬみてもころ。つねのごやくつくる 宜 常 如 製

志あぐつ 鞆 常 足袋 如 製 つねのたびのごやくつくる

まくら 枕 白布若 志らぬの、をく、志らぎぬふ、わゑをひれてつく 白 絹 綿 入 製

る。さやびごとふ、く 俗 拵 枕 云 りまくらやふものごやくつ 如 製

るべー

ひみぬの 忌 布 志ふびやのかねをかふぬのなり。きぬみても 死 者 顔 覆 布 絹

ころ

志やね 褥 死 者 下 敷 褥 白 布 三 布 志ふびやの志あよ志く志やねなり。志らぬのみぬ

乃、なごさつさか、わゑをひれてつくる 長 五 尺 綿 入 製

ふすま 衾 死 者 上 覆 衾 大 褥 志ふびやのうへをおふふすまなり。おあきさ志

やねふおなり 同

うゑわゑ 填 綿 白 布 袋 縫 綿 入 大 志らぬのをふくろみぬひ、わゑをひる。おあきさ

ちひさき 小 凡 二十 許 製 是 尸 およそはあちばうりつくる。これハ志らばねを、

ひつぎふ 棺 歛 空 所 填 綿 をさゑたるやまきすきたるやころふつむるわゑ

○はふりたのさかみつまき

なり

禮服 官位 高人 相當
るやごるも つらさくらゐたのきひやとそれふかなへる

ころをもちう。うへはきぬ、かりぎぬ、もくはひ、ひるれ、
服 用 袍 狩衣 直垂

たぐびやと、かたぎぬをみなひ、おすひたぐびやハ、あるご
庶人 肩衣 婦人 襲 庶人 白衣

るも、いづきもあらあさをくハ、ぬのをもちゐて、つ祿の
白麻 布 用 常

ごやくつゑる。これと、志ふびやを、ひつぎにをさえて、それ
如 製 死者 棺 斂 其

かゝらふおきそふるものなり。たぐし、たぐちみきする
傍 置 添 服 但 直 著

らうから乃ころふまうに
親戚 心 任

免でつもの 此 死者 者 棺 斂 時
免でつもの 此 死者 者 棺 斂 時

つ祿又免でつる、つるぎかぐみそくハ、ふで、すびりなむ
平生 愛 斂 鏡 筆 硯

のゑぐひ、かたいらふおきそふるあり
類 傍 置 添

えさぐくはもの
雜 物

えき かなづち かみ 志らぬろく
釘 鐵 地 紙 白布 類

るつりつもの
祭 具

このき 六枝 白和幣 著
神 六枝 白和幣 著

ふやたまぐー 三本 小五 鐵 兼 妻 人
太五 鐵 三本 小五 鐵 兼 妻 人

のかずふ志るがふ頁 従

何神 白和幣青和幣著
つまも、さのまみ、ちらぬぎて、あをぬぎて、たつく、

大麻 二本 神竹 合鐵
おちぬさ ふたもや、さかきや、たけををありせて、さし

麻本綿・著
あさや、ゆふやを、つく

鹽湯碗 二口 土、焼 用

志お由まり ふあつ、つちやま、なもちう

葉四脚 五鐵、大おちぬさ、
つとゑ ちひら 志おゆふもちう

甕四口 二口 土、焼 用
ふら ちつ さのづき ふたつ

平籠 六口 葉碗 四口
ひらの ちつ ちぢて ちつ

右四品 土、焼 用
みぎよーな、つちやまをもちう

高杯 二十 六枚 花瓶 二口
たのつき はたよりむひら はなごゑ ふたつ

燭臺 二基 燈皿 二口
やもーざら ふあもや やもーざら ふたつ

高葉 五脚 小葉 五脚
たのづゑ ちつひら こづゑ ちつひら

齋竹 十本 葉附 竹 用
みみか け やをと、ばのり、はつきのたけをもちう

端出 之繩 三十尋 葉端 處
ちりくゑあハ みそひろば、のり、わらの、は、を、ち、ら、づ、

出左 搓綯 其間
ふみだして、ひふりたりふあひて、そ乃あひふ、こゝに、

白和幣 挂垂
ちらぬぎて、たかちるる

○はぶりけのたかちるる

新薦 凡七十枚
あらごも おろそなうそひら

送葬装束具
はふりねとそひつもの

輻車 一具 櫃 載 引行車
まぐるま ひやつ、ひづぎをのせて、ひきゆくまなり。こ

甚尊 御邊 用
まの、ひや、ふやまきみあたりみて、もちるさせたまへるも

其形 詳 其家 定
乃よて、そはかちつアびらならす。そのひくくのさ

だえよまかすべし

大 擧 一具 櫃 載 昇 擧 大
おちごー ひやつ、ひづぎをのせてかくこーなり。おちまきさ

櫃 准 屋 製 法 例
ひづぎみならふ。やねをつく。つらりかたならひあり

端出之繩 一 條 大 擧 柱 注連
志りええ ひやすぢ、おちごーふかくる志えなり

梟 子 二脚 擧 載 置 臺
こーぐら ふあつ、こーをのせおくらなり

象炬 六本 樺 皮 以 製 無 柄
たび むもや、かばのうはをもてつくる。なまやまき、あさあ

或 杉 皮 代
ら、あるら、すぎのかはふかふ

簾 二本 常 竹 簾 如 製
はくき ふあもや、つ糸のあははくき乃ごやくつくる

大 神 一本 根 掘 神 用 正
おちさのまき ひやもや、ねこどさのまきもちうるをたし

式 然 得 難 根 掘
まのりやび。志りれやも、えごあぐればねこどふあらざれ

難 枝 多 繁 用 五 色
やもさるたごなり。えだおちく、志だまざるをもちう。ひつ

○はふりねのやかみつまき

○二十三

ろ乃きぬ絹の和幣にぎてをかたる挂垂

小神ふも二本白赤絹の和幣にぎてをかたる挂垂

つりはた系一竿白布用絹悪からび

かみのは上端一紐著官位名姓名柘乃ひつ

ぎた無びや人か姓ね名のひつ柘ぎや大お書まくのくべ

は旗あ竿ぎ一本城青竹ひ用や用も用あ用を用だけ用を用もち用う用

こ小ば旗あ數は葬式ふ等り從の白な赤ふ二種あ二種ふ二種た二種く二種

さ絹ま布ぬ惡めて惡つく惡る惡ぬ惡は惡も惡あ惡ら惡ず惡ひ惡を惡つく惡

は旗あ竿ぎ青竹を以あ製を製だ製ら製も製て製つく製る製

辛櫃一合物ひ入つ櫃ふ櫃つ櫃ふ櫃つ櫃その櫃を櫃ひ櫃つ櫃あり櫃し櫃ら櫃び櫃ぎ櫃

ま例な例ら例ひ例あり例

紐一條辛櫃辛櫃辛ひ挂も紐ひ白や布す白ぎ布から白ひ布つ白ふ布か白ら布る白を白もち白な白う白き白ら白ぬ白の白を白

もち用う挂か様け結ぎ様ま例む例す例び例ぎ例ら例な例ら例ひ例あり例

志注免連な繩ら辛ひ櫃つ挂ふ注か連ら注ひ注つ注ふ注か注ら注る注志注免注な注ら注ひ注あり注

櫃発ひ辛つ櫃ぐ櫃ら櫃から櫃ひ櫃つ櫃を櫃の櫃す櫃ら櫃ら櫃な櫃ら櫃

製花二條春梅枝雉子夏夏桶桶つ桶くり桶ば桶な桶ふ桶あ桶え桶だ桶は桶ら桶い桶ら桶を桶が桶え桶ふ桶ま桶き桶ら桶な桶ら桶ひ桶あ桶ら桶ち桶

○はふりたのなかみつままき ○二十四

ばな郭おち公や秋と秋ぎす秋、萩あま萩いは萩ま萩よ萩う萩づ萩ら萩も萩ー萩ら萩も萩み萩ぢ萩
鴨あ鴨も鴨、四また四あ四つ四ふ四ても四、松まつ松づ松え松み松、枝ひ枝げ枝こ枝み枝や枝ま枝り枝この枝
入み入を入、著あ著ま著て著つ著ら著あ著る著を著ゆ著ち著う著

太刀一口白絹絹 囊入 木以 假假
 たち ひや一ふ一り一、志ら一ぎ一ぬ一の一ふ一ら一ふ一ゆ一る一、まあ一ま一き一を一も一て一か
太刀製 白布 囊入 難難
 りだちをつくりまらぬのこふらろふゆるともさるたげ
 ならー

雜刀一張假木以製白絹囊
 なぎあまるひやふりかりみきをもてつくりまらぬのふ
挂くろをかく此 女こまらぬをよみなのこをなひゆちう

弓ちみ 一張白木削製略竹竹
 ひやいりまらきをけづりてつくるはぶまてたけふ
製てつくるもちー

箭二筋篠篋鳥羽制略
 やふたすぢ志はしのみやりのはをいまてつくるはぶま

紙てかみをはやするもちまあるなー
蓋きぬづさ 一具白絹以張白絹挂
垂けあるる

右四品麻人用
 みぎらないないあびやらもちあるじ
杖一本杖袋つあぶくろ 白絹麻裏
 つあ ひやをやつ あぶくろ まらぎぬあさのうら

○はふりけのやかみつまき

沓 一枚 沓 臺 製 法 例
くつ ひやつ くつぐら つくりかたならひあり

墓 標 一 墓 杉 以 製 面 官 位
はうぶるー ひやつもとすぎもてつくる。おもてふ、つかさく

らるかばねなのはのやかまうらみやつーのな、つきまひを志

るに

籠 長 持 禮 葬 具 入 籠
かごなぶもち へさぶくろはふりつものを以るゝかごな

り。たけもてつくる

あゑのもけ やもーはまの 沓 類 手 桶
あゑのもけ やもーはまの へさぶくろはふりつものを以るゝかごな

ひさく なへ乃あぐひ、すべて、やまみのぞみて、ななくてか

なはぬまのぞもをやりつゑてひるべ

假 喪 屋 かりもや

假 喪 屋 葬 祭 執 行 所 横
かりもや はふりまつりをやりおこなふやところなり。よこ

ひやつゑあさりやさか、あて、いつゝゑ、おもひかやをあ

け、そのあひあみ、えがりをむひ免ぐらゝ、それおくべみ、

やつゑあさりふあさゝらおもひ、はーらをたて、けあ城や

り、たるきをつけ、や糸字ふま、あらごもを志きて、まつりや

ころやひ、また、そ乃ひだりのかあみ、うたごころ、みぎりの

方調饌所造附横九尺長
かあふ、み々や、ころまつくりそふ。ここ、けさの、たあがさ

一丈二尺許竹虎結廻
ひやつ志あまうふあさかばかり、もぶりをひえぐら、

内新薦敷喪屋四方齋竹立
うちみ、あらごもを志く。そやの、おもふ、ひみあをたて、

端出之繩引内總新薦敷
志りく免をひきうちあ、すべてあらごもえきく

假屋二所一所齋主副齋主以下
かりやふたつひやつハ、ひはひぬ、ひはひのす々より志

樂人至迄休息所一所
も、うあひやふひあるまで乃、ひこひやころなり。ひやつち、

喪主喪婦始喪人衆衆休息所
えぬ、えをほれ免もひやえろこのやすみやころな

長廣時宜隨定
り。ながさひろさ、やまはよろきふ、まだかひてさあむべ

1

上斂具從此至四條喪
かみのをさえつそのをり、こくふひあるをさありあも

家例葬儀等級斟酌
や乃ならぬーや、はありあぎの志なとふをりて、はうら

中三等一分略下等
ふべー。なあれ志なハ、みつのひやつをほふき、志もの志

其半省最下等
なも、それあかバをほふき、ひやーもの志あら、まあそは

半略
ああバをほふきてをー

斂棺式
をさえわざ

斂具整頓殯室便宜所
をさえつそのをかりそろへて、あらま乃まの、あをりよまや

○はふりれのりかみつまき

ころみおく。置親族。尤者左。右居
並比登布多歌。數遍唱懸。勲拜
ならびひやふたう多をあまた。びやなへ。祓もごろみをろ
がみして、こやにつく。こはやき、阿そびべ。か多はらみありて、
比布美。繰返。唱
ひみりるを、ろりかへ。ろりかへ。やなふ。まづ、以みち
をかたいらふ、そなくおく。備置。次女親戚進
を、かたいらふ、そなくおく。つぎに、をみならからすすみて、
狭布取。湯浸。適度。絞。死
さぬ乃をやりて、ゆみひる、よきやぎに。志がりて、志にひや
のかちより、のむぎらびのあ多りを、やいらみぬぐふ。次
み、著。袂。脱服。上方。輕。刺。胸
み、きふるふすまをぬぎ、ころものかみのたを、そやはぎむ

祓はらてなやに、以多、きたなげふ、あづきたるやころあ
らバ、ぬぐひさり、もやのごやぐ、ころもをか。次服
もの志を乃か多をはぎて、ほがみより、もろ、ひざあ、をぬぐ
ひもや乃ごやぐころもをか。懸。次徐。横
ふさせ、ころもをなるははぎて、か多せ、こ、ありのあ多りの、
太汚穢。所而已。拭。故。如。服
以多、く、なごれたるやころをのみぬぐひ、もや乃ごやぐころ
もをきせ、あふむきふふさせ。此。間。男。親戚。傍
はらより、そはわざを多す々て、志みびやを、み多りに、うごか

○はふりたのさかみつまき

○二六

さぶらーむべー 次 湯桶 拭 布 遠 取 除

つきふ、志にびやせ、ひよりべふならべて、志やねを志き、
次 死 者 左 方 並 禪 敷

そ乃うへみ、おびをよこみひきはへ、そのうつみにひごろも
其 上 帶 横 引 其 上 新 衣

を、うづぎ、志あぎは、あつきまで、かさ福て志きひろげ、まら
表 衣 内 衣 襯 衣 重 敷 廣 枕

をすう、つきふおのもここ、志にびやせのかるをらみたり
居 次 各 死 者 傍 依

そひ、おひやもにるやびーてるちひやりら、をろてをさー
倚 相 共 揖 立 一 人 兩 手 差 入

まで、かーらをもち、みぎうひよりより、ふよりーて、もろてを
頭 持 左 右 二 人 兩 手 差 入

さー以きて、かゝるをもち、ひやりハ、もろてをさー以れて、もろ
差 入 肩 持 一 人 兩 手 差 入 兩 手

あーをもち、みぎうひよりより、ふよりーて、をろてをさー
足 持 左 右 二 人 兩 手 差 入

きて、こーをもち、あひやもみ、むやーくもたぐて、そろるるに
腰 持 相 共 等 持 上 徐

おなひて、志や福のうへなる、にひごろものうへみ、あふむき
擔 禪 上 新 衣 上 仰

ふふさーむ つきふ、をみなうのら、よりそひて、まくらをま
卧 次 女 親 戚 依 倚 枕 卷

かせ、以みぬのもて、かゝをおわひ、たふさぎをつけ、あれごろ
忌 布 顔 覆 禪 著 契 衣

もをぬぎさうり、はあつきをきせ、こひもをむすび、おひごろも
脱 去 襯 衣 著 小 紐 結 新 衣

をきせ、おび袂むすび、志あぐつをつく つきふ、ひつきをに
著 帶 結 鞆 著 次 棺 擔

あひて、志にびやせの何ーのかゝるふ、うへのかたをむろて、ひた
死 者 足 方 前 方 向 左

○はふりたのどかみつまき

○二十九

傍 居 次 各 左 右 躡
 りのかたはらふすう つぎふおのくみぎりひどりみり
 踞 拜 立 四 人 禪 四 隅
 すぐまりをろごみしてあちよどりして、志やねのよすみを
 持 二 人 左 右 相 對 禪
 もち、またふどりして、みぎりひどりみあひむらひて、志やね
 中 持 等 持 上 棺 前 方
 のなをらをもちて、ひやうくもたがて、ひつぎのまへ乃のあ
 足 向 徐 下 直 平
 ふあをむ々て、そろくにおろす、すぐよあみ、たひらふ
 臥 次 死者 官 位 隨
 ふさむべー つぎふ志にびやの、つろさくらあみ志あが
 冠 袍 或 烏帽子 狩 衣 直 垂
 ひて、かぶり、うへのきぬ、あるら、志がし、かりぎぬ、ひるれ
 笏 中 啓 太刀 紐 刀 女 櫓 扇 紐 鏡
 さく、すゑひろ、たち、ひもがなを、みあち、ひあふぎ、ひもか

庶 人 上 下 肩 衣 扇 脇 差 女
 みたびやハ、かみしも、かまぎぬ、あふぎ、わきざし、をみたら、
 白 衣 鏡 玉 官 位 拘 平生
 志ろごろも、かづみ、あま、つろさくらあみ、か、いらげ、つねふ
 愛 旣 傍 置 添 但 喪
 免でつる、てなまの、も乃なや、かあひらにおきそふ、たがし、も
 家 望 依 冠 服 直 著
 やのくぞみふとりて、か、かぶり、ころもなや、たがちあきす
 難 次 空 間 填 綿 固
 ろもさるたがあー つぎふすまきま、く、く、ふ、う免わあをか
 填 清 衾 蓋 差 固 白
 多くつゑ、きをきふすまをおかひ、ふたをしてき、かあ免志
 布 或 白 絹 祀 掛 笠 子
 らぬの、あるら、志らぎぬのおかひをか、け、ひつぎぐらを
 置 其 上 前 方 下 向 平 居
 おき、そけうへふ、まへのかあを、志もへむけて、たひらうふす

○はふりたのてかみつまき

次 遊 部 柩 前 案 居 柳
う つぎふあそびべびつぎ乃まへふつくあをすあさこのき

をそなへ、供 酒 洗 米 水 鹽 等 置 足 比 登みきあらひよねみづあかなげおきあらわしひや

ふたうあを、布 多 歌 數 遍 唱 拜 親 戚 同あまあふびやなつてをろがみすうからまあお

あどくやなへ、唱 拜 手 拍 退 居 次をろがみてうちうて、ありぞきをり つぎふ

かゝるぐ、交 替 浴 湯 身 清 柩 護 侍あみしてみをきよあひつぎをまもりさも

らふこや、殯 式 如あらき乃ごせー

此 事 仕 間 亡 靈 傍
こはわざつらふるあひあも、あなあきたまの、かあはらふ

まもらひをるや、護 居 夢 忘 一 向 慎ふこやを、あをわすれど、ひあぶるあつ

くーみるや、敬 根 言 禁 比 登まひ、みあひふ、そのひふこやをいまーあひや

ふたうあを、布 多 歌 微 音 唱 靈 和 仕ごあふやなへ、みあまをなごあつ、つこのふ

べきあり、然 下 賤 男 裸 體さるを、あもごまふてを、をやこの、あかはあこのふ

なり、女 肌 衣 單 甚をみあら、はあぎひやへふなり、はあはあーきはち

まきたな、妄 言 放 仕やして、あらぬこや、ごもひちらーつ、つこのふる

こやな、有 趣 聞 尸 浴 故ああるとーきこゆるら、かばあををあらふああふ

其 湯 激 著 厭
そのゆのあ、最 無 禮 謂 抑ばーりつこのむこやを、ひやへるふもあるべ

きや、最 無 禮 謂 抑あもくく、なあきあざあひふづー。そもく、かば

○はふりたのやかみつまき

ねをあらふこやハ、ふるくを古書のふもみえたれやも、それは見

ふやう外國風にふりふならへるわざふて、ひのふあらひ洗

やも、か尸ねのきをま清るるべきひ謂無れなま今唯き然無禮が、ひ今唯ふら、た

ぐぬ拭耳ぐふ定ば然無禮うりや然無禮き然無禮あ然無禮たり然無禮。さ然無禮ま然無禮が、さ然無禮る然無禮な然無禮え然無禮き然無禮わ然無禮ざ然無禮ハ

必止き止や止む止べ止き止こ止や止ぞ止。さ止て、志死臭氣ふ死臭氣く死臭氣さ死臭氣け死臭氣や死臭氣そ死臭氣、ひ言難臭ひ言難臭が言難臭あ言難臭ま言難臭き言難臭く

さ氣け氣の氣あ氣る氣な氣れ氣が、あ殯式ら殯式ま殯式の殯式う中ち中を中り中、か沈を沈り沈ぎ香甘、か松を松り松ぐ

さ樟く樟す樟や腦其他ふ腦其他、そ他の他わ他の他、あ香ふ香く香て香も香、く臭さ臭く臭か臭を臭り臭あ臭る臭を臭の

を、枕邊ふ枕邊て枕邊あ燒く燒べ燒い燒。く臭氣さ臭氣け臭氣を去耳さ去耳る去耳の去耳み去耳な去耳ら去耳び去耳、志死ふ死

む者や病の病や因ま因ひ因ふ因ち因り因て因ら因、そ其れ其あ氣け氣を避さ避く避る避あ助す助や助や助

ななりりなりてなりとなりいなり

あ殯式ら殯式ま殯式の殯式く條あ此り此よ此り此こ此ろ此に此ひ至あ至る至ま至で至、葬葬事事葬事の葬事あ大使ら大使づ大使

か喪事長ひ相あ議を議さ親や戚あ手引ひ手引は手引う手引り手引て手引、う手引ら手引や手引う手引ら手引ふ手引て手引び手引き手引い手引

て行お行こ行あ行り行い行む行べ行き行な行り行

ひ齋は主ひ喪家ぬ入い入も入や入ふ入ひ入る入

あ豫ら副う齋ら主る以下ひ齋は部ひ等の等す集け集よ集り集い集も集、ひ集は集ひ集べ集が集も集を集つ集や集い集

て時や至ま待は喪家ひ使あ遣る遣を遣ま遣す遣つ遣も遣や遣よ遣り遣つ遣の遣ひ遣を遣お遣こ遣せ遣て遣ひ遣り遣た遣

○はふりたのどかみつまき
○三十二

ちをこふ。心はひぬし。心はひのすけあひうべなひ。心はひべ

等率 喪家 向 喪家 出迎 導

葬事 大 使 葬事 少 使 待 迎

はふりのおちづらひはふりのそひづらひ。まちむらへて、ひ

室 誘 齋 主 副 齋 主 座 著

やまざころふ心ざなふ。いはひぬし。いはひのすけくらふつ

葬事 使 等 禮 言 畢 先 葬

く。はふりのつらひら。めやごやまをーをわる まづはふり

儀 概 略 告 喪事長 並 葬

わざのおちらふをづけ。もをさならびふ。はふりのこやぐも

負 擔 人 等 名 簿 取 出 齋 主 副

乃、うらもちびやぐもねあふみやり心でく。いはひぬし。い

はひのすけみつぐ。心はひぬし。心はひのすけやりみる

齋 主 告 齋 主 副 齋 主 取 見 次

ぎふもをさ。もをさのそひぐや。越よびてあひむ。心はひぬ

副 齋 主 懇 切 應 祭 典 儀

し。心はひのすけ。ねもごろふ。心はひのすけ。まつりのこや。志りび

應 接 萬 事 相 議 契

やにあへせて。とるづらひはからむ。こやをちぎららむ

葬 具 製 造 長 並 送 葬 整 列 者

ぎふ。そのつらりのをさ。ならびふ。はふりのつらや。このへび

等 呼 應 接 齋 主 副 齋 主

やぐもをよびて。あひむ。心はひぬし。心はひのすけ。これ。越

慰 勞 次 親 戚 招 入 謚 號 書

福ぎらふ つぎふ。うからをまねぎ。心はひのすけ。おくりなふ。みを

木。おに。うら。うら。う。々。て。志。り。ぞ。く。 つぎふ。こや。志。り。び。や。も。を

○はふりけのやかみつまき

○三十三

製所定 次典儀葬事
のへぎころをさお免一む つぎふ、こやまりびや、はふりの

使祭具 出 出 出
つらひに、まつりつもの残ひあさ一む つぎふもをさふつ

饋物 出 次典儀裝束
げてみ々つものをひださ一む つぎふ、こやまりびや、をそ

師調饌師 告其事 就 齋部
ひし、み々一につげて、そ乃こやふつの一む。ひはひべこれを

助 次典儀葬 具 照檢葬事
たすえ つぎふ、こやまりびや、はふりつものをみる。はふり

使葬具 製造長 共 導 典 儀
つらひ、をのつらりむをさやもふ志るべす。こやまりびや

委曲點檢 備 物 補造
つばらふみて、もし、そあつらざるをのあらが、おぎあハ一む

次典儀送葬 行列帳 見 葬事
つぎふ、こやまりびや、はふりのつらふみを見る。はふりの

大 使送葬 整列 替 共 議
おわづらひ、はふりのつらやのへひやをよびて、やもには

ありて、空のへあたる、つらぶみをやりいでみ。つぶさ

見 調 所 改 正
ふみて、もし、やのへがるやころあらが、あらた免たぐ一、さ

副齋主 議 副齋主 可 認
てひはひのすまよはふる。ひはひのすけ、もしやみや免をあら

主 齋 議 齋 主 可 認
むに、ひはひぬ一ふはふる。ひはひぬ一、もしやみや免をたら

本 返 次 豫 携
むに、これをも空にかつは つぎふ、かねてたづさへたる、

諸 祝詞案 調
もろ、乃けりやぶみをやりいでて、これをあらたむ。

足 物 調
を、あらざるをばあらが、こまなやのふべ一

遷 靈 式

みあまうつーはわざ

人 死 其 靈 魂 骸 墓 其 邊
むや志ぬまば、そ乃たまーひと、かばねを志あひて、そのあ

たりにをり。はふりのやま、むつぎふそひて、はのやころ

ふにあり、そこふ、お々みたまをやぶ免、それより、うぶすあ

然かみ乃みもやふいあり、そのかみのみいりふよりて、

かみのみかや乃、みまつりごやをうけて、かみやなるごや

は、はトをのくらありに、おきまへたるごや。いまはさふ、

以へごやふ、みたまや城、以やあみて、ささはみたまをさつ

るなるら、そはやま、い、乃うからあるをの、かあーみ志あ

ふふ多、是ば、はあ、そ乃みあまのふや城かたトけあみて、あ

一たゆあべふ、つうへむやれるごころをり、さるならひや

ハなれるなり。されば、何ら多に、ひや乃みるかりたるやま

ふはありわざふさきたちて、みあまうつーのわざをおこ

なふも、うからや何るをの、志あふこころ乃やるかたな

さふ、そのみたまをわかちて、以へのみあまやふやぶ免お

きて、志あーくつうへむた免あり、志ふゆくあまを、さなく、

○はふりたのやかみつまき

○三十五

やが免むやするふらあらば。凡^レ靈^魂幾^箇
わうちたりやも、^其元^無靈^魂減^無分^無の
みて、^警燈^火幾^處分^無のちたりやも、
を^本光^減のひよりけへるこやなまきや、^同道^理こやわりなりけ
り。されば、^然靈^屋屋^鎮祭^其靈^魂分^無
て、^靈屋^雷雷^其戸^墓を志たふたりてハ、
其^靈魂^分分^墓所^雷雷^幽界^界
そのみたまわられて、はのやころふやいまり、^其府^到神^神
おきてに志たがひてら、^提隨^冥府^到神^神

なるあり。かれ、^朝あさ^夕ふら、^靈ま^屋ま^向むのひてつ^仕のへ^殊
故^有日^墓所^參ふら、^此心^人心^此遠^靈
これら^等のこやをよくこころふ^心ひ^人ま^此で、^此此^遠み^靈ま^遠う^靈つ^靈
のわざをバ、^式修^行おこなふべきあり。それまづ、^典儀^世を
事^長議^時刺^定時^至調^師師^裝装^師を
をさや^はありて、^東師^招招^事事^就東^師事^受事^受
ひ^一致^了了^福福^ぎぎ^て、^ここ^やや^ああ^つつ^らら^いい^むむ。を^そそ^ひひ^しし、^ここ^やや^をを^うう^けけ^て、
豫^定置^祭場^與方^正中^中
かねて、^靈床^設其^上新^薦敷^延其^其
みたまやこをまけ、そのうへふあらごもを志きはへ、その

○はふらけのぞかみつまき

上 案 居 其 上 新 薦 敷 其
 うへふ、つくゑをすゑ、また、そのうへふ、あらごもを志ま、そ
 上 白 絹 豫 調 製
 けうへふ、あらごぬ、裁、志ま、そ乃うへふ、の祿て、やうのへお
 新 靈 屋 載 其 前 白 和 幣 著
 なる、にひみあまやをのせ、そけまへふ、あらふぎでつけた
 具 押 左 右 插 立 其 次 鹽
 るるさのき、裁、みぎりひありふさ、たて、そのつぎふ、志わ
 湯 神 託 板 小 案 載 二 方
 也、かみよりいたを、こづくゑみのせて、おなドくふたかた
 分 居 其 間 正 中 船 代 案
 ふわのちすゑ、そけ、ひだのまなろふ、おな、ろづくゑを
 置 其 靈 床 傍 破 所
 おく、また、そけ、みあまや、このかゑ、いらを、はらへや、ころや
 定 高 案 居 新 薦 掛 其 上
 さたゑて、たかづくゑをすゑ、あらごもを、かけ、そのうへふ、

神 籬 立 其 前 小 案 居 大 麻
 ひもろぎをたて、そ乃まへふ、こづくゑをすゑ、おやぬさを
 立 置 躰 室 櫃 前 案
 たておく、さてるゑ、あらぎのまけ、ひつぎのまへに、つくゑ
 二 脚 置 其 傍 幃 幃 一 張 備
 ふるひらをおき、そけ、かゑ、いらふ、や、づり、ひや、はりをそな
 置 裝 束 畢 趣 典 儀 告 典
 へおき、そひをへつるを、こや、あり、びや、あつぐ。こや
 儀 具 巡 視 躰 室 護 居
 あり、びや、つぶさふみ、えぐりて、あらぎのまふ、もらひを
 親 戚 此 行事 中 次 室 退
 るうからを、このおざ、乃あひ、あつぎ、けまへ、あり、ぞか、
 調 饌 所 到 調 否 見 諸
 また、み々、ごころ、み、ありて、やうのへり、や、いなや、を、み、も
 整 頓 其 趣 齋 主 副
 ろ、く、や、の、ひ、たら、む、おら、その、を、以、は、ひ、ぬ、以、は

○はふりけのやがみつまき

齋主 告 喪事長 告 喪事長 喪主 喪
ひのすけふつげ、また、をさふつぐ。もをさ、また、ぬい、も
婦 告
免ふつぐ

初 擊 柝 齋 主 副 齋 主 齋
は、先、て、う、ち、ぎ、越、う、つ

部 各 齋 屋 入 次 樂 人 各
べ、お、の、も、く、く、く、み、や、ふ、ひ、る。つ、ぎ、ふ、う、た、び、や、お、の、も、く、く

く、ひ、る

再 擊 柝 各 威 儀 整
ふ、ふ、く、び、う、ち、ぎ、な、う、つ

ふ

み、ふ、び、う、ち、ぎ、越、う、つ 齋 主 副 齋 主 並
は、ひ、ぬ、い、は、ひ、の、す、け、な、ら、び、ふ

齋 部 樂 人 各 順 次 隨
は、ひ、べ、う、た、び、や、お、の、く、く、つ、ひ、で、ふ、志、ふ、が、ひ、て、ま、つ、り、や

進 齋 主 立 典 儀 先 立
こ、ろ、ふ、す、く、む

導 祭 場 端 到 左 方 跪
て、志、る、べ、い、ま、つ、り、や、こ、ろ、の、く、ち、ふ、ひ、た、り、て、ひ、ふ、り、べ、ふ、ひ

揖 齋 主 立 揖 祭 場
さ、ま、づ、き、て、る、や、び、す。は、ひ、ぬ、い、た、ち、ら、ぬ、や、び、い、て、ま、つ、り、や

入 左 座 著 副 齋 主 立 贊
こ、ろ、ふ、ひ、り、て、ひ、ふ、り、の、く、ら、る、ふ、つ、く。は、ひ、の、す、け、た、つ。こ

者 先 立 導 祭 場 端
や、ま、つ、り、び、や、さ、き、ふ、た、ち、て、志、る、べ、い、ま、つ、り、や、こ、ろ、の、く、ち、ふ

到 左 方 跪 揖 副 齋
ひ、た、り、て、ひ、ふ、り、乃、か、る、ふ、ひ、さ、ま、づ、き、て、る、や、び、す。は、ひ、の

主 立 揖 祭 場 入 右 座
す、け、た、ち、ら、ぬ、や、び、い、て、ま、つ、り、や、こ、ろ、に、ひ、り、て、み、ぎ、り、の、く、ら

○は、ふ、り、た、の、た、か、み、つ、ま、き

○三十八

著 與 儀 贊 者 立 相 共 立
 ゐおつく。ごや志りびや、ごやよりびやだちて、あひやもあ
 ちるやびして、法 如 座 著 齋 部 次
 りみすみ、のり乃ごやくるやびして、進 法 如 揖 左 右 分
 りてくらゐふつく。うたびや、おなとくすみて、たちゐやび
座 著 樂 人 同 進 立 揖
 して、うたのむしるふつく。 樂 席 著 次 喪 事 長 喪 主 喪 婦 導
 ちびきして、くらゐふつういむ。うから、また、くらゐふつく
先 各 揖 著 次 親 戚 座 著
 まづ、おのころやびす。 次 著 次 被 主 被 所
 ぬすみて、はらへのごやばを、進 被 詞 告 各

次 被 師 進 法 如 大 麻 取
 つぎふはらへへす。みで、乃りれごやくおあぬさをやり、
鹽 床 被 清 次 調 饌 所 到
 まづ、みたらやごを、はらひきを免、つぎふ、み々やごころふいた
饌 清 齋 主 副 齋 主 始
 りて、み々をきよ免、それをり、いはひぬし、いはひのすけをは
齋 部 樂 人 喪 人 至 被 畢
 ド免、いはひべ、うたびや、をびやふあるまで、はらひをへり
大 麻 本 如 收 次 裝 束 師 祝
 て、おあぬさを、ごやくを、さむ。 次 裝 束 師 祝
詞 業 持 出 右 後 取 傳 後 取 法
 やぶみをもち、みぎりの志やうりふつたふ。志やうりけり
如 取 懷 次 齋 主 見 低
 のごやくやりて、あやころあに。 次 齋 主 見 低
 つぎふ、いはひぬし、みで、
頭 副 齋 主 後 取 此 見 應 後
 なづきん。いはひのすけ、志やうり、これをみて、はらへす。まづ、志

○はより比のさかみつまき

取二人左右右立立並並進進鹽鹽
 ざりふたりみぎりひだりたりたちてならびすゝみて、志を
 湯神託板板案案共共持持捧捧左左右右
 ちかみよりいゑをつく志やゝもふをちさゝげて、みぎりひ
分立立副副齋齋主主進進鹽鹽屋屋開開
 かりおわうれてたつ。いはひのすけすゝみて、たまやをひら
船代代取取出出案案載載捧捧持持立立
 きて、ふな志ろをせりいで、つく志おのせて、さゝげをちてた
齋主主立立殯殯室室向向進進副副齋齋
 つ。いはひぬーたちて、あらしきのまおむひてすゝむ。いはひ
主船船代代持持捧捧其其後後附附後後取取
 のすけふあーろをもちさゝげて、その志りへふつき、志り、
二物物持持捧捧其其後後從從
 また、ふたつのものをもちさゝげて、そは志りへふ志あがふ。
典儀儀最最先先立立導導殯殯室室端端
 こは志りびや、いやさきおたちて志るべし、あらしきのまはく

ちおいありて、ひだりべにひざまづきてるやびす。いはひぬ
立揖揖殯殯室室へへ櫃櫃左左右右
 し、たちるやびーて、あらしきおひり、ひつぎ乃ひかりべの
座著著副副齋齋主主櫃櫃前前進進船船代代
 くらおふつく。いはひのすけひつぎおまへにすゝみ、おあ
案上上正正中中載載置置拜拜齋齋
 ろを、つく志のうへのまなのおのせおきて、をろがみーて、い
主相相對對右右方方座座著著後後取取
 はひぬーおあひむひて、みぎりべはくらおふつく。志やり
二人人同同進進物物左左右右
 ふたり、おあどくすゝみて、ふたつはものをみぎりひかり乃
案上上載載拜拜左左右右分分
 つく志のうへおのせ、をろがみーて、みぎりひかりおわうま
齋主主副副齋齋主主次次座座著著典典
 て、いはひぬー、いはひのすけ乃、つぎはくらおふつく。こは志

○はふりたのぞかみつきまき

儀 次 室 侍 護 喪事長喪 主 喪婦
りびやん、つぎのまふさもらひまもる。もをさもぬし、もをを

導 次 室 侍 次 各 揖
みちびきて、つぎのまふさもらひらへむ。つぎふ、おのくくお

齋 主 先 柩 前 進 拜
やびは、いはひぬし、まづ、ひつぎのまへへおすゝみてをろがみ

後 取 祝 詞 業 手 次 齋 主 取 微 音
は。志ざり、けりやぶみをしてつぐ。いはひぬし、やきて、ごが志お

告 告 畢 後 取 附 後 取 奉 如
のる。殊りをりて、志ざりにさづく。志ざりやきて、志や乃ご

懷 收 此 間 各 敬 禮 齋
やぐふやころふをさむ。こ乃あひあ、おのくかこみは、い

主 拜 拍手 座 少 左 方 轉
はひぬし、をろがみうちでして、くらをすこしひらりべりう

副 齋 主 進 齋 主 相 對 右
つは、いはひのすけ、すゝみて、いはひぬし、やあひむらひて、み

座 著 相 共 蹲 踞 次 後 取
ぎり乃くらるおつき、あひやもふうすゝまる。つぎふ、志や

立 障 幟 取 來 殯 室 端 引 覆
りあちて、やばりをやりきて、あらきのまろくちふひきて、お

隱 人 見 引 畢 次 室 出
わひらくして、ひやふみ志免だ。ひきをりりて、つぎのまふは

蹲 踞 齋 主 副 齋 主 謹 敬
でうすゝまる。いはひぬし、いはひのすけ、つゝみるや

遷 靈 神 術 行 行 畢
ひつゝ、みあふうつゝのかむわざ字おこあふ。おこなひをハ

相 共 拜 短 手 二 拍 拜
りて、あひやもふをろがみして、志ぬびでふあつうら。アを

蹲 踞 此 間 後 取 喪 主 喪 婦
ろがみしてうすゝまる。このあひあ、志ざり、アたもぬし、も免

喪事長 典 儀 至 慎 敬 禮
もをさ、こを志り、びやふはたるまで、つゝみてかこみし、

○はより此のそかみつまき

短手音聞頭舉後取立幃
 志ぬびでのあやをまきこて、かーらをあぐ。志せりたちてやバ
 幃除次齋主拜比布美神
 りをのぞく つぎふ、いはひぬーをろぐみーて、ひふみ乃か
 語唱船代持捧祭場
 むごや、城をなへつふ、ふなーろをもちささげて、まつりやこ
 歸向典儀先立導副
 ろふ、かへりむらふ。こせ志りひや、さきふあちて志るべー、以
 齋主其後護後取二人二物
 はひのすけ、その志りへをまもり、志せりふあり、ふあつのを
 持捧其後從贊者樂
 のをもちささげ、その志りへふ志あづふ。こせりひや、うあ
 人告樂奏典儀祭場
 びやふつがて、うたをかなぞーむ、こせ志りひや、あつりやこ
 端到傍跪齋主祭
 ろのちちふひありて、かふるはらふひさぶづく。いはひぬー、ま

場歸齋部親戚各敬禮
 つりがころふかへる。いはひべうから、おのこかーこみん。
 齋主靈床向進船代靈
 いはひぬー、みたまぞこむむひてすすみ、ふなーるなみあ
 屋藏副齋主少下敬禮後
 まやふをさむ。いはひのすけ、すこーさぶりてかーこみん。志
 取二物裝束師副齋主
 やり、ふあつのをの城、をそひーふわあーて、いはひのすけ乃
 後附敬禮齋主船代藏
 まりへふつきてかーこみん。いはひぬー、ふなーる城をさ免
 畢樂人樂止各頭舉齋
 をる。うたひやうたやむ。おのこかーらあぐ。いはひ
 主左方坐面覆去笏取
 ぬー、ひありべふすわりて、おもおわひをささり、さくをせりて、
 副齋主對低頭副齋主應
 いはひのすけふむひてうなづきん。いはひのすけをらへ

○はふりけのどかみつまき

相共進 靈屋 向 竝 躄

に。あひやをもふすゝみて、みまよふむうひて、ならびてうす

躄後取 共進 其後 附 竝

ぶまる。志やうりまゑやもふすゝみて、その志りへふつきて、あ

らびてうすゝまる。おのゝゝあひやもふ、あまゝびをろがみ 拜

し、うつてうちて、すたをろがみし、ひやうくひざ志ぞき、たち

志ぞきして、おのゝゝをやのくらぬふうへる。それよりさき、

装束師受取 二 喪事長導 喪主 喪

とそひし、うけやうりたるふたつはそのま、み々いふわゑし、み

々やうころみをさゑしむ。また、もをさみちびきして、もぬし、も

婦祭場 復座 著 次 典

急まつりやうころみかへり、もやうくらぬふつく つきふ、こ

やまうりびや、ひはひぬし、ひはひのすけふ、みまよひはひまつ

り乃そのやうのへるををつぐ。いはひぬし、ひはひのすけ

をうやうこゑふ つぎふ、おのゝゝひやびひ つぎふ、てなご

のをさたちて、みまみちふすゝみてうすゝまる。てなごあの

とく、みぎりひゑうり、おなごくすゝみてうすゝまる

きふ、おのゝゝすゑひろ字をさゑおもおちひをうく つぎ

み、うたびやうゑをかなづ つぎふ、みまゝみまををちさ

げひで、てなごふつたふ。てなごの、のりはごやうくしてうけ

○はふりたのでかみつまき

○四十三

持 捧 次 手長 傳 次 手長 同
 り、もちさく上げて、つぎのてなぐおつ多ふ。つぎのてなぐおな
 受 取 次 手長 傳 次 手長
 かくてうなやうり、まゑ、つぎ乃てなぐおつたふ。つぎくか
 手 次 手長 傳 手長 長
 くのごやぐてつぎて、てなぐのをさふつ多ふ。てなぐれをさ
 捧 持 饌 案 上 正中 供 拜
 さくげもちて、み々づくゑのうへは、まなろふそなへてをろ
 次 饌 始 如 手次 上
 がみひ。まゑ、つぎのみたを、はじ免れごやぐてつぎのおせて、
 手長 長 傳 手長 長 始 如
 てなぐの乃をさふつ多ふ。てなぐ乃をさまた、はじ免れのごやぐ
 持 捧 並 供 幾 臺 如此為 供
 をちさく上げて、ならべそなふ。以くくらふても、かくまつそ
 供 畢 本 如 饌 道 復 蹲
 むふ。そなへをわりてもや乃ごやぐ、み々みちふのへりてう

踞 樂 入 樂 止 手長 各 面 覆
 すぐる。うたびやうたをやむ。てなぐあのおく、おもおなひ
 去 相 共 拜 手長 長 始
 をさり、あひやもふをろがみして、てなぐれをさくはじ免
 次 立 本 座 復 次 典
 て、つぎくくふあちて、もやのくらあふのへる つぎおこや
 儀 齋 主 祝 詞 告 賜 白 齋
 まりびや、いはひぬーお、乃りやけりたるへやををひ。いはひ
 主 唯 稱 裝束師此 見 祝 詞 案 持
 ぬーをくやこふそひし、これをみて、のりやぶみもち
 出 後 取 傳 後 取 受 取 法 如
 以て、まげりふつたふ。まげりうなやうりて、終りのごやぐ
 左 手 持 齋 主 見 低 頭 後 取 見
 て、ひありのておをつ。いはひぬーみて、うなづき。まげり、み
 應 齋 主 進 祝 詞 座 著 後
 て、ひらへひ。いはひぬーすすみて、のりやろくらあふつく。ま

○はふりけのぞかみつまき

取 左 方 後 就 同 進 少
 せり、ひだりべの志りへふつききて、おなづくすすみて、すこ
 さがりてすわる。いはひぬし、まづをろがみす。志せり、けり
 ぶみをしてつぐ。いはひぬし、やりて、もちながらをろがみ、か
 らをあげつゝ、みでこれをのる。けりをわりて、志せり、ふさ
 づく。志せり、もやのごやくをさきて、もやのごやくもつ。い
 はひぬし、ふたゝびをろがみし、よつうちで、またをろがみ
 して、のり乃ごやく志きて、もやけくらるふらつる。志せり、
 おなづく志きて、もや乃むらうらつる。つきふ、こやく

 者 副 齋 主 進 賜 言 副 齋 主
 唯 稱 次 副 齋 主 齋 部 對
 低 頭 齋 部 應 副 齋 主 進 座
 著 齋 部 次 進 其 後 並
 躡 踞 副 齋 主 再 拜 四 拍
 手 齋 部 相 共 拜 拜
 畢 末 席 次 本 座
 復 副 齋 主 退 本 座 復 次
 〇はふりけのやかみつきまき 〇四十五

取 左 方 後 就 同 進 少
 せり、ひだりべの志りへふつききて、おなづくすすみて、すこ
 さがりてすわる。いはひぬし、まづをろがみす。志せり、けり
 ぶみをしてつぐ。いはひぬし、やりて、もちながらをろがみ、か
 らをあげつゝ、みでこれをのる。けりをわりて、志せり、ふさ
 づく。志せり、もやのごやくをさきて、もやのごやくもつ。い
 はひぬし、ふたゝびをろがみし、よつうちで、またをろがみ
 して、のり乃ごやく志きて、もやけくらるふらつる。志せり、
 おなづく志きて、もや乃むらうらつる。つきふ、こやく

 者 副 齋 主 進 賜 言 副 齋 主
 唯 稱 次 副 齋 主 齋 部 對
 低 頭 齋 部 應 副 齋 主 進 座
 著 齋 部 次 進 其 後 並
 躡 踞 副 齋 主 再 拜 四 拍
 手 齋 部 相 共 拜 拜
 畢 末 席 次 本 座
 復 副 齋 主 退 本 座 復 次
 〇はふりけのやかみつきまき 〇四十五

賛 者 喪 主 喪 婦 對 進 賜
ぎふ、こやうりびや、もぬし、も免みむらひて、すゝみまへや

言 喪 主 喪 婦 應 即 導 座
るをい、もぬし、も免みらへす。すゝみはち、みちびきてくらるみ

著 喪 主 喪 婦 拜 拍 手 本 座
つこゝむ。もぬし、も免、をろごみうちでーてもやのくらるみ

復 親 戚 同 進 拜 本 座
うへる。うから、おなごくすゝみ、をろごみーてもやのくらるみ

復 次 手 長 長 饌 道 進 躡
ふのへる つぎふ、てなごのれをさ、みちみちふすゝみてらす

躡 手 長 次 進 躡 躡 躡 各 中
ふまる。てなごの、つぎゝゝみすゝみてうすゝまる。おのゝゝす

啓 收 次 樂 人 樂 奏 次
ゑひろをゝさむ つぎふうたびやうたをかたづ つぎふ

手 長 長 進 拜 最 末 饌 撤
てなごのをさ、すゝみてをろごみーて、ひやすゑのみをさ

手 長 傳 手 長 法 如 受 平
げて、てなごふつたふ。てあが、けりのごやぐーてうけやうて、

次 手 長 傳 次 手 次 最
つぎのてなごふつたふ。そきゝりつぎゝゝゝゝてつぎて、いや

末 手 長 調 饌 師 傳 調 饌 師 受 取 調 饌
すゑのてなごがより、みちみちふつたふ。みちみちうけやうて、みち

所 收 手 長 長 拜 次 饌
かゝるふをさむ。てなごのれをさ、またをろごみーて、つぎ乃み

撤 次 手 長 傳 次 手
なをさげて、つぎ乃てなごのふつたふ。それより、つぎゝゝゝゝて

次 調 饌 所 收 初 如 撤 畢
つぎて、みちみちこゝるふをさむ。こやうは、おのゝやぐー。さげを

手 長 長 饌 道 復 躡 躡
りて、てなごのをさ、みちみちふかへりてうすゝまるこやう、

初 如 手 長 各 順 序 從 饌
は、おのゝやぐー。てなごのゝゝゝゝ、つぎでふまゝのひて、みち

○は、おのゝやぐーのひて、みち

道 復 躰 路 樂 人 樂 止 手 長 各
 みちふうへりてうすぶまる。うたびやうたをむむてたのにお
中 啓 取 拜 手 長 長
 のくすすあひろをやりてをろつのみーててたののけをさより
次 本 座 復 次 退 手 次
 つぎくふもやのくらるふらつる つぎふさつりて
退 出 次 者 室 戸 開
 ぎふまのりつづ つぎふこやつりびやむろのやをさーて
去 さら

つひ乃まつりわざ

典 儀 喪 事 長 儀 儀 祭 場 定
 こやまつりびやむをさやはうりてまつりやごころをさふ
装束 師 招 喪 事 長 告 装束 喪 事 長
 とそひーをまねぎむをさふつげてとそひせーむ。むをさ

喪 人 率 殯 室 入 柩 掃 來
 もびやをみて、あらきのまふり、ひつぎをふなひきたる。
装束 師 殯 祭 場 與 方 正 中 新
 とそひーはやくまつりやごころの、おくべのまなふ、あら
薦 敷 喪 人 其 上 発 子 置 其 上
 ごもを志く。もびや、そのうへふひつぎぐらをおき、そのう

へふひつぎをおろす。まへ乃かゝるを志もへむ々て、た
柩 下 居 前 方 下 向 平
 ひらふすうべー。そのまへふみ々づくあふたひら、み々
居 其 前 饌 案 二 脚 饌

おちのらむふらみひらよひらもすうべー。そけうへふま
多 三 脚 四 脚 居 其 上 真
 さのまふやふやう志で、みぎりひかりふさーたて、その
神 木 綿 取 垂 左 右 挿 立 其

まへふすこーひらきて、ひかりにたちみぎりふもみやを
前 少 開 左 太 刀 右 弓 箭

掛並 婦女子たち、カ、弓、箭、代へて、なぎふ、其前
かたならべ、をみまら、たち、カ、弓、箭、代へて、なぎふ、其前
あをくらふかけ、ま、あ、の、ふ、を、な、ふ、こ、れ、は、

牙につくりばなをたてならぶべし。おのゝかたぐら字
製花立並 各々、掛、臺

置挂立 葬事、大、使、送
あきて、かけたつ糸 つぎふ、は、ふ、り、の、お、か、づ、の、ひ、は、ふ

葬整列 者、率、玄、關、前、裝、束、先
りのつらやのへびやをるて、はひりまへ乃をそひすま

づからひつをはひりふすゑはひりのまへふくひをたて、
辛櫃玄關居玄關前 枕、立

ひふりふおちさのき、みぎりふつりは多をたて、それより
左大神右系旌立

つぎふ、み々、小旗列並立 門、内
つぎふ、み々、み々、つらなを多つべし。また、かや乃うち

外庭燎設 次、調饌師、饌、物
やふ、かづりのま々すべし 次、調饌師、饌

深心用清調理 深、心、用、清、調、理
ふのくころをもちめて、きをらふつくりやのふべ

次典儀贊 者、相、共、内
つぎふ、こやまりびや、こやまりびやあひやもにうち

外見廻調饌所 到、曲、點、檢、萬
やをみえぐり、み々やころふあり、つばらふみて、よろづ

関漏 整頓
のくるこやなくやのひあらむふハ、そ乃を、以はひ

主副齋主 此處、も、密、び、人、を、以、へ、る、也、
ぬ、以はひのすけふつぐべし 此處、も、密、び、人、を、以、へ、る、也、

親戚 此、こ、こ、を、以、ふ、下、
もこま 此、こ、こ、を、以、ふ、下、

初撃 柝、齋、主、副、齋、主、以下
は、おきて、うちぎをうつ 以はひぬし、以はひのすけより志

も、以はひべらたびやふ 至、威、儀、整
も、以はひべらたびやふ 至、威、儀、整

○はふりれのさかみつまき

○四十八

喪事長 柝 受次 擊 喪主 喪婦 始 親
もをささうちぎをうけつぎてうつ。もぬし、もををははる
戚親族 總 喪 就 人 皆 服 更
からやのらすべて、もふつくひやぐくみあころもをあら

たむ

再 擊 柝 齋 主 副 齋 主 進
ふあうびうちぎをうつ いはひぬし、いはひのすけすくみ

祭 場 入 典 儀 贊 者 導
てまつりやころふひる。こやまうりびや、こやうりびやあるべ

前 條 如 次 喪主 喪婦 喪人
するこや、アへのくだりのごやー つぎふもぬし、もをささひ

各 祭 場 入 喪事長 喪 事 補 導
や、おのくまうりやころふひる。もをささ、もをささのそひ、みち

前 條 如 次 各
びきするこや、アたまへのくありのごやー つぎふ、おの

揖 次 手長 長 手長 各 長 手長 次
くるやびす つぎふ、てながけをさ、てながあのくく、みちみ

進 躰 人 樂 奏 手長 次
ちあすくみてうすぐまる。うたびやうたをかあづ。てなが、つ

立 饌 手次 傳 手長 長 饌
ぎくく、みたちて、みちをてつぎつたへ、てながけをさ、みちを

供 畢 本 如 饌 道 復 躰
そなふ。そなへをわりて、そやのごやぐく、みちみちあ、つりう

躰 樂 止 手長 長 手長 次
すぐまる。うあびやうたをやむ。てながのをさ、てなが、つぎく

本 座 復
くもや、乃くらあかへる

次 贊 者 喪事長 對 誄 辭 白
つぎふ、こやうりびや、をささふむのひて、あぬびごやまを

賜 白 喪事長 答 即 喪主 喪婦
したう、やまを。ををささうらへ、すなわちもぬし、もを

○はふりけのさかみつまき

○四十九

をば始 誄志ぬび人 誄ぶ率をろ進をみ座て、す進みてくら座るお

つ著 喪 事 補 誄く。ををさ誄のそ誄ひ、志ぬび誄ご誄やぶ案 持み左 方をもち持て、ひ左 方ありべ持お

つき就 同 進 少 退 坐 喪 主 喪ておな同ト進くす少み退すこ坐志喪 主 喪ぞ喪 主 喪きてす喪 主 喪わ喪 主 喪るも喪 主 喪ぬ喪 主 喪し喪 主 喪も

免婦 諸 其 後 居 並 喪 事 長 拜をろ拜く、そ拜れ拜志拜り拜へ拜お拜る拜あ拜ら拜ぶ拜も拜を拜さ拜ま拜づ拜を拜ろ拜が拜み

す喪 主 喪 婦 諸 同 拜も喪 主 喪 婦 諸 同 拜ぬ喪 主 喪 婦 諸 同 拜し喪 主 喪 婦 諸 同 拜も喪 主 喪 婦 諸 同 拜免喪 主 喪 婦 諸 同 拜も喪 主 喪 婦 諸 同 拜ろ喪 主 喪 婦 諸 同 拜く喪 主 喪 婦 諸 同 拜お喪 主 喪 婦 諸 同 拜な喪 主 喪 婦 諸 同 拜ト喪 主 喪 婦 諸 同 拜く喪 主 喪 婦 諸 同 拜を喪 主 喪 婦 諸 同 拜ろ喪 主 喪 婦 諸 同 拜が喪 主 喪 婦 諸 同 拜み喪 主 喪 婦 諸 同 拜す喪 主 喪 婦 諸 同 拜も喪 主 喪 婦 諸 同 拜を喪 主 喪 婦 諸 同 拜さ喪 主 喪 婦 諸 同 拜の喪 主 喪 婦 諸 同 拜そ

ひ誄志ぬび誄ご誄やぶ案 手 次 喪 事 長 取 誄み誄を誄て誄つ誄ぐ誄も誄を誄さ誄や誄り誄て誄つ誄く誄み誄て誄志誄

ぬ誄び誄ご誄や誄を誄ま誄を誄す誄志誄ぬ誄び誄ぶ人 敬 禮 言や誄あ誄ひ誄や誄も誄お誄か誄こ誄み誄ん誄だ誄

を誄し誄を誄は誄り誄て誄も誄を誄さ誄け誄そ誄ひ誄み誄つ誄あ誄ふ誄も誄を誄さ誄け誄そ誄ひ誄り誄け誄

や取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜り取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜て取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜も取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜や取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜ほ取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜ご取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜や取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜く取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜を取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜さ取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜免取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜を取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜つ取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜も取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜を取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜さ取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜ふ取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜あ取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜る取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜び取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜を取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜ろ取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜の取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜ひ取 本 如 收 持 喪 事 長 再 拜

み四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人よ四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人つ四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人て四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人う四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人ち四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人て四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人ま四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人た四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人を四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人ろ四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人が四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人み四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人す四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人。志四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人ぬ四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人し四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人も四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人免四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人志四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人ぬ四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人び四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人ぶ四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人や四 手 拍 拜 喪 主 喪 婦 誄 人

お同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同な同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同の同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同ト同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同く同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同を同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同ろ同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同が同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同み同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同志同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同ぞ同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同き同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同て同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同も同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同や同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同ほ同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同く同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同ら同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同ら同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同る同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同お同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同か同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同つ同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同る同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同も同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同を同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同さ同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同け同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同そ同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同ひ同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同お同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同あ同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同ト同 拜 退 本 座 復 喪 事 補 同

さ長 退 本 座 復 喪 事 補 同、志長 退 本 座 復 喪 事 補 同ぞ長 退 本 座 復 喪 事 補 同き長 退 本 座 復 喪 事 補 同て長 退 本 座 復 喪 事 補 同も長 退 本 座 復 喪 事 補 同や長 退 本 座 復 喪 事 補 同ほ長 退 本 座 復 喪 事 補 同く長 退 本 座 復 喪 事 補 同ら長 退 本 座 復 喪 事 補 同ら長 退 本 座 復 喪 事 補 同る長 退 本 座 復 喪 事 補 同お長 退 本 座 復 喪 事 補 同か長 退 本 座 復 喪 事 補 同つ長 退 本 座 復 喪 事 補 同る長 退 本 座 復 喪 事 補 同も長 退 本 座 復 喪 事 補 同を長 退 本 座 復 喪 事 補 同さ長 退 本 座 復 喪 事 補 同け長 退 本 座 復 喪 事 補 同そ長 退 本 座 復 喪 事 補 同ひ長 退 本 座 復 喪 事 補 同お長 退 本 座 復 喪 事 補 同あ長 退 本 座 復 喪 事 補 同ト長 退 本 座 復 喪 事 補 同

く復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言あ復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言へ復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言る復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言を復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言い復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言び復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言や復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言あ復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言て復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言す復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言な復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言い復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言ち復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言あ復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言も復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言び復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言や復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言を復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言い復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言ふ復 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言 此 處 誄 人 言

い副 齋 主 代 言 式は副 齋 主 代 言 式ひ副 齋 主 代 言 式の副 齋 主 代 言 式す副 齋 主 代 言 式け副 齋 主 代 言 式か副 齋 主 代 言 式は副 齋 主 代 言 式り副 齋 主 代 言 式て副 齋 主 代 言 式る副 齋 主 代 言 式を副 齋 主 代 言 式い副 齋 主 代 言 式の副 齋 主 代 言 式り副 齋 主 代 言 式

こ贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜や贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜り贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜び贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜や贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜も贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜ぬ贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜し贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜お贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜む贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜ら贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜ひ贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜て贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜志贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜ぬ贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜び贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜ご贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜や贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜ま贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜を贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜し贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜た贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜ま贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜は贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜る贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜べ贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜ー贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜や贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜る贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜を贊 者 喪 主 對 誄 拜 言 賜

○は言 喪 主 代 言 賜ふ言 喪 主 代 言 賜り言 喪 主 代 言 賜ぬ言 喪 主 代 言 賜し言 喪 主 代 言 賜か言 喪 主 代 言 賜は言 喪 主 代 言 賜り言 喪 主 代 言 賜て言 喪 主 代 言 賜ま言 喪 主 代 言 賜を言 喪 主 代 言 賜し言 喪 主 代 言 賜た言 喪 主 代 言 賜ま言 喪 主 代 言 賜は言 喪 主 代 言 賜る言 喪 主 代 言 賜べ言 喪 主 代 言 賜ー言 喪 主 代 言 賜や言 喪 主 代 言 賜る言 喪 主 代 言 賜を言 喪 主 代 言 賜

贊者副齋主對代言
 此。こやくりびや、いはひ乃すけふむらひて、かはりてまを
 賜言。副齋主唯稱。裝束師
 一たまへやまをい。いはひのすけをくやこたふ。をそひ
 此見。誄案。持出。右。後取
 これをみて、志ぬびごやぶみもちいで、みぎり乃志や
 傳。後取。法。如。受取。持。贊
 りふつふ。志やりのりはごやぐいて、うけやりもつ。こや
 者。誄人。諸。進。賜。言。喪
 りりびや、志ぬびごやもろろ、すすみたまへやまをす。も
 主。喪婦。誄人。諸。進。贊者。導
 ぬし、も志、志ぬびごやもろろ、すすむ。こやくりびや、てび
 座。著。副齋主。進。後取
 きいてくらるふつ。のむ。いはひのすけすすむ。志やり、ま
 進。法。如。誄。餅。案。手。次。
 た、すすみて、乃りはこやぐいて、志ぬびごやぶみをつぐ。

副齋主取讀誄人敬禮讀畢
 いはひのすけやりてよむ。志ぬびごやかこみす。よみを
 後取。付。拜。手。拍。誄人。同
 はりて志やりふさづけをろがみてうち。志ぬびごや、お
 拜。手。拍。其。外。前。條。如
 なくをろがみてうち。そのかわら、まへのくゑりのご
 副齋主退本座復後取
 や。いはひのすけ志ぞきて、もやれくらるおかへる。志や
 同本席復
 り、また、おあどくをやのむ。ろおへる

次典儀齋主祝詞告賜白
 つぎふ、こや志りびや、いはひぬし、のりやのりたまへやま
 齋主唯稱。裝束師。此。見。玉。籤
 をい。いはひぬしをくやこたふ。をそひ。これなみて、たまぐ
 案。持出。饌案。前。居。太。玉
 一づく志をもちいで、み々づく志のまへへす志ふや、たま

○はふり此のてかみつまさ

儀 持 出 左 後 取 傳 祝 詞 案

ぐーをもちひいで、ひだりけ志ざりふつたへ、また、のりやぶ

みをもちひいで、みぎりの志ざりふつたふ。志ざりおのゝ

うけやりもつ。いはひぬし、みて、うなづき。志ざり、みて、ひら

へす。いはひぬし、すゝみて、のりやけくららみおつく。志ざりふ

たり、おなトくならびすゝみて、すこーさりてすわる。いはひ

ぬし、をろがみす。ひだりの志ざり、ふやたまぐーをてつぐ。い

はひぬし、これをやり、のりけごやぐーて、すゝみて、こまをそ

なへ、すこー志ぞきて、をろがみす。みぎりけ志ざり、のりやぶ

みをてつぐ。いはひぬし、やりて、もちなごらをろがみし、か

らをあがて、つこーみて、こまをのる。のりをはりて、これを志

ざりふさづく。志ざり、もやのごやぐをさをもつ。このあひた

おのゝかーこみ。いはひぬし、よたびをろがみ、やつうち

で、またをろがみ、ひざ志ぞきたち志ぞきーて、もやのくら

るおかへる。志ざりまゑおなトく志ぞきーて、くららるおかへ

る つぎふ、こやぐりびや、いはひのすけおむひて、すゝみ

たまへやまをひはひのすけ、をろがこたふ。をそひし、こま

○はよりけのてかみつまき

○五十二

見 玉 籤 持 出 右 後 取 傳 後
をみて、たまぐしをもちいで、みぎり杖志やりふつたふ志

取 之 受 取 副 齋 主 見 低 頭 後 取
やりこれをうけやる。いはひのすけ、みて、うなづきす。志やり

見 應 副 齋 主 進 座 著 後 取
みて、ひらへす。ひはひのすけ、すゝみてくらゐつゝ。志やり

後 附 同 進 少 去 坐 副
志りへふつきて、おなドくすゝみて、すこーさりてすわる。い

齋 主 拜 後 取 玉 籤 手 次 副 齋
はひのすけをろがみす。志やり、たまぐしをてつぐ。いはひの

主 受 取 法 如 進 之 供
すけうけやりて、はりのごやぐして、すゝみてこれをそなへ、

少 退 躄 踏 齋 部 各 次 次 小
すこー志ぞきてうすゝまる。ひはひべおのゝゝ、つきゝゝ小

進 其 後 居 並 副 齋 主 再 拜
すゝみて、その志りへふるならふ。ひはひのすけふたゝびを

ろがみして、をうちで、ひはひべおなドくをろがみうち

手 拜 拜 畢 最 末 座 次 次
で、またをろがむ。をろがみをわりて、ひやす志より、つきゝゝ

立 本 座 復 副 齋 主 膝 退
とふたちて、もやのくらゐかへる。ひはひのすけ、ひざ志ぞ

立 退 本 座 復 後 取 同
また志ぞきして、もやのくらゐかへる。志やり、おなドく

退 本 復 次 裝 束 師 小 玉
志ぞきして、もやのくらゐかへる。つきふ、をそひし、こた

籤 持 出 喪 主 喪 婦 喪 人 分 次
まぐしをもちいで、もぬし、もぬし、もぬし、もぬし、もぬし、

贊 者 喪 主 喪 婦 對 進 賜 白
こやうりびや、もぬし、もぬし、もぬし、もぬし、もぬし、

喪 主 喪 婦 應 裝 束 師 玉 籤 案 持
す。もぬし、もぬし、もぬし、もぬし、もぬし、もぬし、

○はより杖のなかみつまき

ちひでるすう。たまぐーのかすおちらば、つくきおのすお

ちひでるすう。たまぐーのかすおちらば、つくきおのすお

ちひでるすう。たまぐーのかすおちらば、つくきおのすお

ちひでるすう。たまぐーのかすおちらば、つくきおのすお

ちひでるすう。たまぐーのかすおちらば、つくきおのすお

ちひでるすう。たまぐーのかすおちらば、つくきおのすお

ちひでるすう。たまぐーのかすおちらば、つくきおのすお

ちひでるすう。たまぐーのかすおちらば、つくきおのすお

ちひでるすう。たまぐーのかすおちらば、つくきおのすお

ちひでるすう。たまぐーのかすおちらば、つくきおのすお

ちひでるすう。たまぐーのかすおちらば、つくきおのすお

ちひでるすう。たまぐーのかすおちらば、つくきおのすお

ちひでるすう。たまぐーのかすおちらば、つくきおのすお

ちひでるすう。たまぐーのかすおちらば、つくきおのすお

ちひでるすう。たまぐーのかすおちらば、つくきおのすお

○はらわのやかみつき

○五十四

人樂止手長長手長相共拜
多びやうたをやむてなぶけをさてあごあひやもふをろが
みしてつぎくく本座復次退
てつぎおのくく退去
つぎおのくく退去

此條上條祭式互
このくありやかみのくあり乃まつりわざやちたがひふ
あつりあはせてあるせり。そはこころをえててらあ
せてみべー

凡祭式立居步行進退揖
およそまつりわざぬいたちぬありきすくみまどきあや
びをろがみかーこみるなづきまたばらへわざはらひう

手次受取物持様至
はてつぎうけやりそのくもちさまふ心あるまでふこや
ごやみさままれるのりあるなり。かみのくありくくふ
をりくくのり乃ごやくのりたまふくくなや志るせるも
乃すなはちこれなり。これらはこやぐもつばらふ志るさ
すわーのきやもひやわづらばーくあふくくみさやりか
あなればすべてならひわざふあづりてこくふちはあけ
り

立装束
あちをそわひ

齊主副齊主始各立裝束

いはひぬし、いはひのすけをは始免おの各るるあちをそひ

す。また、うま馬のり乗をのなが物あらむ者ふら、こ贊やくりびやして、

櫛人人丁、を櫛ろな櫛がふ、か櫛福て、こ櫛ろす用づく意志免示さしむ。

此時被師二人喪家残のこ喪る主また、も喪ぬし、も喪免

も喪びや、お同な同く同を同ひ同ひ同。戸同た同つ同ら同や同る同の同へ同び同や同は同あり

の同を同わ同ろ同を同つ同ぎ同へ同て同や同き同の同い同ある同字同まつ同さて同、ひ同つ同ぎ同ぐ

ら同、き同ぐる同ま同なら同で同、お同ち同ご同ー同なら同む同ふ同ら同、こ同や同くり同ひ同や同は同

ふ同りの同お同ち同づ同ら同ひ同、そ同ひ同づ同ら同ひ同ふ同、か同ね同て同や同る同の同へ同お同ろ同る同、

お同ち同ご同ー同を同ひ同免同さ同し同む同。と同そ同ひ同し同も同び同や同る同や同も同に同、ま同つ同り

が同ころ同ふ同に同な同ひ同ひ同れて同、ひ同つ同ぎ同の同か同あ同ら同ふ同お同き同、る同や同ひ同

ー同て同、ひ同つ同ぎ同な同あ同げ同て同お同ち同ご同ー同ふ同の同せ同、や同ね同を同お同ち同ひ同、志同り

え同を同な同ひ同致同はり同て同と同そ同ふ同。と同そ同ひ同を同り同り同て同、こ同や同くり同ひ同や同、

之同を同、ひ同は同ひ同ぬ同し同、ひ同は同ひ同の同す同け同あ同つ同ぐ

は同ド同免同て同う同ち同ぎ同を同う同つ同　　ひ同は同ひ同ぬ同し同、ひ同は同ひ同け同す同け同ひ同は同ひ同

べ同す同く同み同て同、み同ぎ同り同ひ同ふ同り同ふ同を同なら同ふ同、此の同や同き同、み同々同し同、と同そ

ひ同し同、を同ろ同や同も同お同す同く同み同て同く同ら同る同お同つ同く同　　つ同ぎ同お同も同ぬ同し同も

○はふりけのやみつき

○五十六

婦書人進

順序

隨

座

著

免をびやすすみてついで志あがひてくらるふつくま

整列

者葬

丁

列

次

隨

たつらやらのへびや、はふりのをわらふづら乃ついで志

裝束

物

持

門

外

列

立

あがひて、をそわひ色の字もたせて、かやのやふつらなみた

次

裝束

師大鼓

持

出

整列

者

す つぎふ、をそひし、おわつぐみをもちつづ。やらのへび

受取

丁

持

次

樂

人

出

整

やうけやりて、をわらふをさす つぎふ、うらむびや、つづ。やらの

列者導

列

就

一む

のへびや、志るべいて、つらふつの一む

二

擊

柝

門

内外

庭燎

かやの

うちやふ

かがり

杖あぐ

ふあゝびうちぎさうつ かやのうちやふかがり杖あぐ

次

贊

者

副

祭

主

對

進

賜

つぎふ、こやうり

びや、はひのすけ

つぎふ、こやうりびや、はひのすけふむひて、すすみたま

白

副

齋

主

唯

稱

即

先

從

へやまを

はひのすけを

へやまを、はひのすけを、やとあへすなはち、さきぞ

齋部

共

柝

向

拜

乃

はひ

べや

もふ

ひつぎ

乃

はひ

べや

もふ

ひつぎ

ふむ

あひ

てを

ろが

みして

たち

てはひりにつづ。やらのへびや、志るべいてつらふつの一む

次

先

從

喪

人

同

立

玄

關

出

つぎふ、

つぎふ、さきぞひのもびや、おなドくたちてはひりふつづ。

整列

者

導

列

著

つぎふ、

はひ

のへび

や、

また、

志る

はひのへびや、また、志るべいてつらふつの一む

東

師

調

饌

師

諸

共

柝

邊

裝

束

そひし、みたりもろやもひつぎべのをそわひ色のをさかて

次

持

出

整

列

者

即

其

品

つぎふ、

こ

つぎふ、こもちつづ。やらのへびや、すあはち、そけ志な

受

取

行

列

帳

隨

其

人

傳

をう

けや

をうけやりて、つらふみ乃まに、そのひや、つづ。ふつあ

○はふりたのどかぬし

○五十七

まゑをそひし、み々一字あるべして、それらに、つらみつら

一む 次 整 列 者 柙 丁 率 玄 關

つぎふ、やうのへびや、ひつきれをちをるを、はひり

前 到 待

乃すへふいたりてまつ

みあびうちぎさうつ 三 擊 柙 樂 人 樂 奏 次 一 整

うのへびや、みつうちぎさうたし、え、さきおひとりは、どゑて

列 者 三 柙 擊 先 追 始

つぎこゝみあーづとすまーむ 次 典 儀 柙

つぎあがもまへやまをほ、もびや、るやびしてたちてひつき

前 後 依 倚 乘 柙 舉 次

乃まへまりへふたちをひて、やいらみひつきをあぐ 次

ふ、こやまりびや、ひはひぬしにむひて、すくみたまへやま

典 儀 齋 主 對 進 賜

をほ、ひはひぬし、ひはひべるやびしてたちをろがみして、ひ

齋 主 齋 部 揖 立 拜 一 柙

つぎ乃まりへふ志あがふ、こやまりびや、こやうりびや、また、

後 從 典 儀 贊 者

それまりへふ志あがふ、をびや、ひつき字にあひてはひりみ

其 後 從 喪 人 柙 擔 玄 一 關

ひあひ、やうのへびや、すあはちをわろしてきぐるまふのせ

出 整 列 者 卽 丁 輻 車 載

一免、またおわごーならむふとすぐふかゝるげーむ 大 舉 直 肩 擔 次

齋 主 齋 部 典 儀 贊 者 導

ひはひぬし、ひはひべ、また、こやまりびや、こやうりびや、志る

列 著 次 喪 主 喪 婦 喪 人 出 整

べせさせてつらふつく つぎふ、をぬし、もゑもびや、ひつき

列 著 次 喪 主 喪 婦 喪 人 出 整

○はふりけのぞかみつままき

○五十八

列者導 隨喪主喪婦 先 左
 のへびや乃志るべのまゝに、をぬし、もををさきやして、ひ
 たりハをやともびや、みぎりハをみなをびやたちをみもを
 長喪 事 補 後 衛 次 整 列 者
 さ、ををさのそむぐや、あやふさふ つぎふや、のへびや、
 三 柝 擊 進 列 整 列 整
 みつうちぎをうちてすくませ、つらをやくのへつらや、
 のへらむふち、ならうちぎをもて、むべ。整 列
 へびや、みぎりひありみ、みたり、もく、みたり、つらありづ
 者 左 右 三人 四人 五人
 隨行 列 亂 徐 行
 たちをひて、つらをみふさび、そろろふむのへむべ
 著 裝 束
 つぎとそむひ

葬 事 大 使 少 使 葬 丁 高
 はふりのおちづらひそひづかひらはふりけをわろみた
 案 小 案 始 種 物 持
 かつく意、こづく意なやをは、ト忽、くさぶこのをのをもた
 葬 列 先 達 假 喪 屋 到 豫
 せて、はふりけつらふさきあちて、かりもやふひたりて、ま
 裝 束 爲 待 先 喪 屋 輿 方 正 中 柩
 あきふをそひして、アつ。まづ、そやのおくべのまなふひ
 居 所 定 其 左 方 墓 標
 つぎ城すうるや、ころなさを、そのひありべふ、はの志る
 枕 立 製 花 小 柎 太 刀 薙 刀 弓 箭
 一とひをたて、まゑつらりばあ、こさかき、たち、あた 由みや
 他 種 裝 束 物 裝 設
 そのわの、くさぶくけをそむひを、ををふべきアけを
 正 面 門 左 大 柎 枕 立
 へ、また、まおもてのかやふ、ひありふおあさのきとひをた
 ○はふりけのてかみつまき
 ○五十九

居 次 華 丁 去 次 齊 主 齋
すう つぎふ、をわろをさらしむ つぎふ、はひぬし、

はひべつく。 部 著 後 列 乃、の 乘 物 の 乘 典 儀 導
りあるもの、此處、ふておる。 此 處 下 儀 導 此中、志りびやふ志

るべせさせて、ひよりふつきて、なみたちてかーこみは 左 著 逆 立 敬 禮 次 つ

ぎふ、をぬし、も免、もびやつく。 主 妻 婦 妻 人 著 贊 者 導 こや、よりびやあるべーて、みぎ

りひよりふたしむ。 右 立 各 敬 禮 次 從 僕 かーこみは つぎふ、つぶね

ら、あぐらをならべすう。 等 胡 床 並 居 各 胡 床 著 次 おのく、あぐらにつく つぎふ、も

びやあちて、 入 立 櫃 前 後 從 揖 櫃 ひつき乃まへ、あちへふそひるやびーて、ひつき

をになひあぐ、 擗 舉 裝 束 師 即 發 子 輿 方 正 中 をおくべのまな

のふすう。 居 妻 人 櫃 擗 持 前 方 下 もびや、ひつき、成になひもちて、まへのかあを志も

へむけ、 向 發 子 上 居 次 裝 束 師 擗 標 こーぐらのうへ、おすう つぎふ、をそひし、はかある

し、 始 種 裝 束 物 受 取 櫃 ちりは、トをて、ささぐ、のをそわひをのをうけやりて、ひ

つき、 邊 取 裝 束 此 間 葬 事 大 使 少 べ、おやうをそふ。 此 間 葬 事 大 使 少 こ乃あひあふ、はふりのおわづらひ、そ

ひづらひや、 便 整 列 者 共 葬 丁 率 門 つらやうのへびや、をそふ、をわろをみて、か

のや、 外 裝 束 先 辛 櫃 訓 候 所 發 子 乃をそひん、まづ、からひつを、み々や、ころふ、ひつぐら

成、 置 其 上 載 置 次 大 柳 門 おきて、そのうへふのせ、おく つぎふ、お布さのき、か

のや、 外 左 系 櫃 右 立 小 旗 四 乃ひよりふ、つりは、あひ、みぎりふたて、こは、あ、よつ

○はふり、の、か、み、つ、ま、き

○六十一

門外立 次 典 儀 贊 者 齋
うやのやふあつ つぎふ、こやきりびや、こやくりびや、いは

主 副 齋 主 對 退 賜 白 齋
ひぬ、いはひのすけにむらひて、志ぞきたまへやまをを。ひ

主 副 齋 主 唯 稱 齋 部 二 人 殘
はひぬ、いはひのすけをくやこゑへ、ひはひぶふたりのこ

置 後 護 櫃 對 立 揖
おきて、あとをまもらせ、ひつぎふむらひて、たちるやび

退 出 齋 部 八 人 同 揖 退
てまよりつ。ひはひべやたりおなドく、るやびーてまより

出 次 樂 人 退 出 典 儀 導
つ。つぎふ、うらむびやまよりつ。こやきりびや志るべ

假 屋 入 暫 休 次 贊 者
て、かりやふららむ。志バーやすらふ つぎふ、こやくりび

妻 主 妻 婦 對 退 賜 妻 主 妻
や、もぬ、もやふむらひて、志ぞきたまへやまをを。もぬ、も

婦 應 妻 人 二 人 後 護 殘 置
免ららへ、もびやふちり、あやのまもりやーてのこーおき

諸 共 揖 退 出 妻 事 長 妻 事 補
て、やろやもふるやびーてまかりつ。もをさむをさのそひ

別 假 屋 導 各 休 次 整
びや、こやかりやふみらびく。おのくやすらふ つぎふ、つ

列 者 列 解 華 丁 等 屯 集 所
らやのへびや、つらをやきて、をわろら残つやへやころみ

入 暫 休 息
ひれて、志バーやほらバーむ

葬 祭 式
はふりすつりわざ

初 擊 祈 裝 束 師 假 妻 屋 入 裝
はト免てうちぎ残うつ をそひ、かりをやふひりて、をそ

束 調 饌 師 調 饌 所 入 饌 調 理 典
ひす。みく、みくやこあふひりて、みくをさ免やのふ。こ

○はふりけのまかみつまき

○六十二

やまうびや、こやうりびや、みえぐりて、まろづやうのひたら

むふら、そ乃むねを、ひはひぬ、主副齋、主告

ふ多うびや、すうちぎをうつ、ひはひぬ、主、次、齋

部樂、人進、座、著、次、喪主喪婦喪

びや、すすみてららるふつく、まづ、るやびん、次、手長

が乃をさうりは、始、手長、次、饌道、進

つきふ、うあびやうたをかたづ、次、調饌師、饌、持

ちさうげて、てなごふつあふ、てなごうたて、つきのでなごふ

つあふ、てなご、つき、つあふ、てなご、乃をさふつたふ、傳、手長

てなご、れをさ、つき、つあひ、つぎのまへ、おそなふ、そなへを

はりて、をやうごやう、みなみちおかへる、次、樂、止

む、つきふ、おの、もやの、くらるおかへる、次、典

まうびや、ひはひぬ、お、すすみあふ、へやまを、を、をひ、あ

まぐ、をもち、ひで、ひありの、志やう、おつあへ、ア、た、のりや

ぶみ、をもち、ひで、みぎりの、志やう、おつあふ、ひはひぬ、す

すみ、て、のりや、れくらるおつく、志やう、あありや、おすすみ

○はふりれのかみつまき

其後 著 左 後取 玉籤 手次 齋
て、そ乃志りへふつく。ひだり乃志やり、たまぐしをてつぐ。以

はひぬし、もちささげてそなふ。そなへをわりてすこし志ぞ
主 持 捧 供 供 畢 少 退

きて、をろがみす。みぎり此志やり、のりやぶみをてつぐ。以は
拜 右 後取 祝 詞 案 手次 齋

ひぬし、やうてのる。乃りをわりて志やりふさづく。このあひ
主 取 告 告 畢 後取

だ、おのろかこみす。以はひぬし、ふあびをろがみ、うら
各 敬 禮 齋 主 再 拜 四

うちでん。をろがみをはりて、志そきて、をやのくらるあへ
拍手 拜 畢 退 本 座 復

る。志やり、おあつく志そきて、もやれくらるにかへる つぎ
後取 同 退 本 座 復 次

お、ごやうりびや、以はひ乃すけお、すすみあまへやまをん
贊 者 副 齋 主 進 賜 裝

そひし、たぶぐしを、みぎり乃志やりふつたふ。以はひのすけ
東 師 玉 籤 右 後取 傳 副 齋 主

すすむ。志やりおなつくすすみて、そ乃ひあり此志りへふつ
進 後取 同 進 其 左 後 著

く。以はひへ、まゑおあつくすすみて、志りへふるあらふ。志ぞ
齋 部 同 進 後 居 並 後取

り、たまぐしをてつぐ。以はひ乃すけやうて、もちささげてそ
玉 籤 手次 副 齋 主 取 持 捧 供

なへ、をろがみうちでん。以はひへあひやもにをろがみうち
拜 拍 手 齋 部 相 共 拜 拍

でし。つぎすすみ志そきて、もやのくらるあかへる。志やりま
手 次 退 本 座 復 後取

あ、おななくもやのくらるあかへる つぎみ、ごやうりびや、
同 本 座 復 次 贊 者

もぬし、も免す。みたまへや戸をん。おぬし、も免す。みて、
喪 主 喪婦 進 賜 喪 主 喪婦 進

○はより此の字かみつまま

玉 籥 捧 拜 手拍 本 座 復
あまぐーをささげて、をろがみてうちて、せや乃くらるおか

へる 次 喪人各々 進 同 玉 籥
つぎふもびやおのくすくみて、おなづくたまぐー

をささげて、をろがみてうちてもせはくらるおかへる 次 本 座 復
つ

ぎふ、をひいたまぐーをさぐる 次 撒
つぎふ、てなごのをささて

あがつぎくくおみ々みちみすくむ 次 進 樂 奏
つぎふ、うゑ、あかあづ

つぎふ、てなごの乃をさ、つぎくくおみ々字さなて、てなごのふ 次 手長 次 手長 次 手長
つぎふ、てなごの、つぎくくおみてつぎつた芽て、み々やころふを

さむ。さぐをはりて、てなごのけをささり、つぎくくおみ々みち 撒 畢 手長 長 次 手長 次 手長 次 手長
つぎふ、てなごの、つぎくくおみてつぎつた芽て、み々やころふを

あうへる 復 次 樂 止
つぎふ、らゑ、あやむ 次 手長 長 手長
つぎふ、てなごのけをささて、あ

が、をせのくらるおかへる 本 座 復 次 贊 者 裝束師
つぎふ、こやくりびや、をひ、

をそわひものをささぐ 次 喪人各々 進 敬
つぎふもびやおのくすくみて、か

しこみて、ひつぎ字あげてもちおなひひづやのへびや、 禮 柩 舉 持 擔 出 整 列 者
つぎふ、をひいたまぐーをさぐる 次 撒

をそわひものをささぐ 次 喪人各々 進 敬
つぎふもびやおのくすくみて、か

しこみて、ひつぎ字あげてもちおなひひづやのへびや、 禮 柩 舉 持 擔 出 整 列 者
つぎふ、をひいたまぐーをさぐる 次 撒

しこみて、ひつぎ字あげてもちおなひひづやのへびや、 禮 柩 舉 持 擔 出 整 列 者
つぎふ、をひいたまぐーをさぐる 次 撒

しこみて、ひつぎ字あげてもちおなひひづやのへびや、 禮 柩 舉 持 擔 出 整 列 者
つぎふ、をひいたまぐーをさぐる 次 撒

しこみて、ひつぎ字あげてもちおなひひづやのへびや、 禮 柩 舉 持 擔 出 整 列 者
つぎふ、をひいたまぐーをさぐる 次 撒

○はふりれのぞかみつままき

齋主 齋部 退手拍 次退 出出
みはひぬし、みはひべさうりてうつ つぎふまうりみづ

次儀 導導
つぎふ、こやまりびやふまるべせさせて、かりやふにあり

休休
てやすらふ

埋葬式
うづあわさ

齋人 妻人 拒拒 護護 進進 彌彌 墓墓 所所
いはひがや、もびや、ひつぎをまもりすくみて、みとくはのや


到到 先先 墳墳 六六 尺尺 去去
ころふにあらば、まづはふりあなより、むさこのあまりさうりた

所所 発発 子子 置置 輻輻 車車 或或 大大 擧擧
るやころふ、こーぐらばあき、きぐるま、あるら、おちこーをり

下下 其其 上上 居居 各各 揮揮 次次 珠珠
おろして、それうへにすゑ、おのこゝるやびに つぎふ、かね

設設 置置 四四 條條 繩繩 少少 長長 井井 桁桁 形形
てまけおなる、とすぢ乃なるはを、すこーながの宛ある、みぐあな

堅堅 横横 二二 條條 並並 其其 行行 合合 毎毎
りお、たてとこお、ふあすぢづならべて、そ乃あきあひごや

一一 結結 結結 此此 如如 平平
お、ひやつむすびおむすび、  かくのごやぐーして、たひ

引引 延延 次次 垂垂 人人 依依 倚倚 根根 擔擔
らおひきはふ つぎふ、もひやよりそひて、ひつぎをになひ

引引 延延 繩繩 井井 桁桁 形形 所所 居居 次次
て、ひきはへたるあいの、あぐたなりあるやころおすう つ

前前 後後 左左 右右 二二 人人 八八 人人 立立 並並
ぎふ、まへまりへ、みぎりひありお、ふありづ、やたりたちあ

揖揖 各各 繩繩 端端 固固 握握 同同
らびて、おやびーて、おのこゝる、なハ乃はーをか多くやり、ひや

等等 力力 用用 平平 持持 擧擧 墳墳 上上 直直
くちのらをひれて、たひらにをたな、ああのうへお、ますぐ

○はふり此のぞかみつまき

臨 徐 繩 地 墳 底 至
ふのぞアせ、そろそろになんはをゆるべて、ああけそこふんた

らむべし。もし、むがみあむふち、なほあて、あげみさぐみ

して、いかにをたぐくすゑ、なほ乃あアリたつ つぎふ、

其 空 間 未 或 石 灰 入 梓 以 漸
そのすきアに、すみのこ、あるら、いばひ字、いれ、ちこもてや

くくにつまか、あむ 此を、尋のつ常のう埋づ葬をわざなりを、
石、指、或、かなきならむハ、世屋

ふて、そのこ、意、ろして、その、乃、り、を、ま、け 其の、法、敷、け

そなへおきて、孫もご、ろ、ふ、を、ま、む、べし 其の、時、其の、ま、きの、た、より、宜、み、依、り、て

一、あらば、その、うへに、すゑ、お、く 其の、ま、きの、た、より、宜、み、依、り、て

る、何、つぎふ、つちを、あつ、く、か、け、あ、の、く、も、り、て、つ、ら、け、ご、や

くきづく 葉 次、比、登、布、多、歌、歌、遍、唱、聖

あまを、なぐさむ 魂 慰 次、退、手、次、墓、所

まゐりさる。かくて、い、は、ひ、の、す、け、い、は、ひ、を、る、て、こ、や、り

びやふ、あ、る、べ、せ、さ、せ、て、か、り、や、ふ、い、る、り、て、い、は、ひ、ぬ、い、ふ、こ

や、を、へ、つ、る、を、い、つ、ぐ。い、は、ひ、ぬ、い、ら、へ、い、あ、ひ、や、む、み、る

ち、こ、や、あ、り、び、や、こ、や、り、び、や、を、志、る、や、や、り、て、つ、ら、を、み、あ

さ、ぐ、も、や、ふ、か、へ、り、む、の、ふ、も、ぬ、い、も、も、を、さ、を、志、る、づ、や、り

○はふのふかむらみ

此埋葬式葬儀結尾殊更
 こ乃うづゑわざちはふりわざ乃むすびなまじバこやさら
 深意用懸懸嚴重
 ふふのくこころをもちるてねもごろふおごそかふすべ
 若此處至疎略
 きなりもしこふ以ありておろそかふ志あらむふいこ
 了了で以のふあつくおもらふつうへたりやもみあみ
 鄭重仕
 泡消世此意用者
 づ乃あわやきえぬべし。こふこふこころをもちうるも
 少墓所事美装
 のすくなくはあやこころまでとこやうるハークをそわひ
 飾仕來彌埋葬際至
 かざりてつうへきつともいようづむるまのふ以あり
 葬丁托廢物捨如
 てハ、ちわろふ戸のせてすめれたるそのますつるごやう

するを以ひ志らばうやましくかたはら以多きこやなり。
 亡璽何見恐事
 なまきるまそれをなふやのみむおそろべきこやならずや
 新墓所装束
 にひはのやこころれをそわひ
 親戚二人三人墓所
 うからふありみたりはのやこころふのこりあてをのつくり
 長議葬丁率墓上芝置
 乃をさやほりてをちる残居葬具製造
 前方墓標築立其前案
 まへのかあふはの志る一をきづきあてそのまへふつゑ志
 置饌酒種物供正面門
 字おきみけみきくさぐされをそあへまおもておかや
 開竹虎結廻神旗假喪屋装
 残あけもがり字おひをぐらしさのきはあふかりもやふら

○はふりけのやかみつまき

東 如 装 立 装 束 畢 各
そひーごやぐみ、そひるつべー。そひをわりて、おのゝ
揖 退 去
あやびーてまかりさる

葬 後 破 事
はふり所のち乃はらへわぎ

發 葬 祭 畢 柩 出 後 破 師 二
つひのすつりをわり、ひつぎいでおーあやふ、はらへーふた

人 殘 家 内 破 清 先 喪 家 内 忌
りのこりて、ひへぬちをはらひきをむ。まづ、もやのうち、ひ

無 人 三 人 招 事 助
みなまきひや、みありをま福きて、こや字たすけーむ つぎふ、

竈 始 家 内 在 在 火 消 新
かすやをはらぬ、ひへぬちおありやあるひ字々、あらるに

鑽 清 火 改
きまら、ひみびおあらるをーむ つぎふ、はらひをも

室 毎 掃 清
て、まごやをはきくをーむ つぎふ、さきにひはひすつり

靈 屋 室 戸 開 疎 設 置 破 所
し、みたまやのまろやをひらき、か福てまけおる、はらへ

大 麻 小 麻 鹽 水 鹽 供 置 次
ころふ、おやぬさ、こぬさ、おやみづ、おやをそなへおく つぎ

破 師 進 破 詞 讀 次 大
お、はらへーすすみて、はらへのこやばをむ つぎふ、おや

麻 以 破 鹽 水 以 其 室 清 此 時 遊
ぬさもてはらひ、おやみづもて、そのまおききをむ。こ乃やき、あ

部 出 破 受 次 助 者 一 人 小
そびべで、はらへうく つぎに、すなびや、ひやうりおこ

麻 一 人 鹽 與 家 内 與 方
ぬさ、ひやうりお志を何あへて、ひへぬちのおく乃かあまた、

炊 所 邊 破 師 到 難 所
かきやころのああり、はらへーのひたりごあきやころお

志鹽をちら散しぬ麻さもてはら後ひて、のころ遺やころ所なく無きを清免

しむ つぎふ次のころ殘ひ一人やう助はす者け導び者やみ者志者る者べ者せ者させ者て、

ま室ご毎やくくくを事る事こ後を清なく清はら清ひ清きを清む清 つぎふ次は女ひ

り關に到ひ同あり後お清あ其ど正く中はら後ひ案きを案免案そ案の案ま案な案ら案ひ案はら案へ案つ

く居志居を立す鹽あ水し水を設て備お人か三ぬ人さ人城人あ人て人志人か人み人づ人を人ま人け人そ人なく人ひ人や人ふ人あり人

つぎふ次か門や外の水や鹽み設づ備志人か人や人を人ま人け人そ人なく人ひ人や人ふ人あり人

城附つけ置お妻き人て歸も來び來や來の來か來へ來り來き來あ來ら來ば來ま來づ來か來や來ら來や來に來て來つ來ぎ來く來く來

ひ員が妻あ人も歸び來や來か來へ來り來き來あ來ら來ば來ま來づ來か來や來ら來や來に來て來つ來ぎ來く來く來

み荒あ清ら清ぎ清を清免清せ清し清む清べ清し清ひ清や清り清ら清ひ清き清を清免清し清も清ち清て清み清づ清を清

そ濯く掛ぎ掛か掛け掛て掛み掛そ掛が掛せ掛ひ掛や掛り掛の掛志掛か掛を掛ふ掛り掛う掛け掛て掛き掛を掛ま掛

はら次しむ つぎふ次は祭ひ員が妻あ人も女び關や關は關ひ關り關み關あ關ら關ば關は關

ら師へ大し麻お鹽か水ぬ以さ後志後か清み清づ清も清て清はら清ひ清き清を清免清し清も清ち清へ清し清ら

しむ被はら畢ひ被を被はり被て被はら被へ被し被さ被ら被り被で被う被ち被て被ま被ある被つ次

ぎ助ふ者す被々被び被や被はら被へ被つ被ぎ被の被な被も被ち被さ被る被

こ此乃被はら被へ被し被ら被ひ被ら被ふ被も被お被こ被そ被か被ふ被せ被る被あ被し被れ被が被こ被や被

志祭が多き中な大ら方の如あ此ま此ぎ此ば此お此わ此ら此た此ふ此か此く此ば此う此り此も此や此て此す此る此あ此

○はより井のたかみつまま

り。か^門のや乃あらぎを^外荒清^意なむ^深てあらひ^思くちそ^入ぐま
でなりやも、ころるにふ^深うくおもひ^思るべ^入

は^葬ふり^後のち乃み^靈あ^祭まつり^式あさ

は^初を^擊て^柝うち^祭ぎ^員な^戚う^儀つ^整 い^祭は^員ひ^戚ぐ^儀や^儀を^整や^儀の^整ふ。

あ^遊そ^部び^同べ^同、ま^典あ^儀お^巡あ^視ど^萬く^視に^萬こ^視や^視あ^視り^視び^視や^視み^視を^視ぐ^視り^視て^視、^萬ころ^萬づ

や^調の^其ふ^趣ら^齋む^主あ^告ハ、そ^告れ^告を^告い^告は^告ひ^告ぬ^告ー^告あ^告つ^告ぐ

ふ^ニあ^擊る^柝び^祭う^員ち^次ぎ^次な^祭う^祭つ^祭ぎ^祭く^祭に^祭ア^祭つ^祭り^祭や^祭

ころ^進ふ^親す^戚く^次む^進ア^進た^進う^進か^進ら^進つ^進ぎ^進て^進す^進く^進む^進 つ^各ぎ^各あ^各お^各の^各く^各

あ^揖や^次び^次ひ^次 つ^次ぎ^次ふ^次は^次ら^次へ^次、^次は^次ら^次へ^次わ^次ざ^次な^次お^次こ^次な^次ふ^次 つ^次ぎ^次

ふ^手て^長な^饌の^供み^次々^次を^次そ^次な^次ふ^次 つ^次ぎ^次ふ^次い^次は^次ひ^次ぬ^次ー^次の^次り^次や^次枝^次の^次る

つ^次ぎ^次ふ^次い^次は^次ひ^次の^次す^次け^次い^次は^次ひ^次べ^次を^次ろ^次ぐ^次み^次に^次 つ^次ぎ^次ふ^次う^次か

ら^戚を^拜ろ^次ぐ^次み^次す^次 つ^次ぎ^次ふ^次て^次な^次の^次み^次々^次を^次さ^次ぐ^次 つ^次ぎ^次ふ^次さ^次り^次

で^手つ^次ぎ^次ふ^次ま^次の^次り^次さ^次る^次

は^葬ふ^儀り^等の^等ー^等な^等乃^等あ^等ら^等ち^等

も^妻や^家ふ^責あ^賤ら^蓄き^貧あ^貧り^貧、い^貧や^貧ー^貧き^貧あ^貧り^貧、や^貧を^貧る^貧あ^貧り^貧、ま^貧つ^貧ー^貧き^貧あ^貧り

て、そ^其れ^等ー^等あ^等ひ^等や^等ー^等の^等ら^等び^等。さ^葬ま^儀ば^式、は^葬ふ^儀り^式わ^葬ざ^葬ふ^葬も^葬、そ^葬の^葬け^葬ち^葬

免なくとあるべからば。かまこくふ、其上等中下
三等別略則辨
 も乃みつふわうちて、おちかたのりをわきまふべし。さて
上等事物悉整備
 それかみつーならん、こやもそのもこやぐくふやぐのひそな
在中等下等漸
 はまろを、なつーな、志もつーあら、そをやくくふはぶま
輕其中略
 かるむるそのあり。そがなるふはぶくやもくるーからざる
 そのあり。また、かならばーもはぶくづーらざるものあり。そ
略齊員祭
 ねはぶくやもくるーからざるものも、まつりびやぐまつり
具葬具裝束物必
 つもねや、はふりつものや、とそひつものやあり。かならばー

もはぶくづーらざるものも、まつりわざや、うづをわざやあ
略埋葬式
 り。うづをわざをばぶきたらむふハ、總事業無
用事式略
 づらごや、なるづく、まつりわざをばぶきたらむふハ、なま
靈無禮無實此差別心
 たまにぬやなく、まこやなまきづごや。これけぢををよく、こ
 ろろうづきこやぞかー

上等二等一等
 かみつーなふふーな
即此條記
 乃、すあいちこれなり。こハハはひぬ、ハハはひのすけ、こ
齋主副齋主典
 やまうびや、こやうりむや、おのろひやう、ハハはひべや
儀贊者各一人齋部十

○はふりたのかみつまき

人 此れをわらちて、はらへぬ。一ひやり、はらへ。二ふり、
 手ながを四た 調饌師一人 装束師二人 葬事使
 りやすべし。み々一ひやり、をそひ一ふたり、はふりづあ
 二 遊部一人 樂人六人 總二十
 ひふありあそびべひやり、うたびやむあり、すべて、はあ
 りりあまりむたりふてつやむづ。まあ、おなド志あふ
 六 勤
 て、やくらだまるハ、をそひ一ひやり、はひぶふあり、う
 少 下 裝束師一人 齋部二人 樂
 るびやひやり字はぶきて、はあふりあまりふたりやす
 二 略 二十 二 人
 べー
 供物
 そなへたの

酒 饌 いひ、志、やぎ、あふら
 みき みけ ひちねのたぐひ
 類 辛菜 おお根、は、姜
 たぐ からあ みのたぐひ
 類 狭物 あぢ、さ、あ、よ
 たぐ はだのさもの 一のたぐひ
 類 滑海藻 稚海藻 昆布 鹿
 ひ 藻 滑海藻 稚海藻 昆布 鹿
 も ハ 尾 菜 海苔 乃たぐひ
 類 柳子 壺 盧
 ろき、あし、ゆら
 た、うりのたぐひ 堅 鹽
 ちうづー。あぶし、をあまりにつくらは、りもそなふ
 但 十 五 壺 供
 少 十 壺 減
 べく、すくあーやを、やくらをりへらに、づのらげ
 中 等 二 等 此 齋 主 副 齋 主 典
 たきのつーな ふあーな こま、はひぬ、はひのすけ、こ

○はふり此のぞかみつまき
 ○七十三

やまりびや、こやくりびや、おのろひや、ひはひべむ

たり、此を分ちては、師長がのをさのねひ

かふたり、人手長調饌師装束師葬事使遊部

おのろひや、うたびや、あり、すべて、やをまりやた

りみてつやむべ。そもろ、かくまつりびや、すくな

らむふたか、あみふあひ、あす々々、こやものなや、のへ

また、はらひや、こなや、はぶくも、やむこやをえざるなり。

さてまゐ、おあど志なみて、やくだきるら、こや志りび

ぶきて、やをまりみたりやすべ

そなへもの

みき、みけ、あまな、からな、はぶ乃ひろも、はさも

のおきつ、もいへつ、をい、これらを、かあらげそあ

ふべく、そのお、ささぐ、のそ、はた、やまき、みまゐ、がひて、

いづき、みもあるべ。たぐ、やくらより、なくらまで

やれ

○はよりたのかみしき

○六十四

儀 賛 者 各 一 人 齋 部 六

此を分ちては、師長がのをさのねひ

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

人手長調饌師装束師葬事使遊部

下等 二 等 此 齋 主 齋 部 三 人
志もつーな ふあーあ ころ、ひはひぬ、ひはひべみあり

此れを分ち別ては祓らへぬ、主手長をさか兼ひやり、
は祓らへ師、てなながか兼ひやり、志が取りてなながか兼ひやり

兼 調饌師 装束 師 兼 一人 樂 人 二人 總
べーみけし、なそひーのねひやり、うもびやふあり、すべ

七 人 勤 兼 祭 員 少
て、なうたりみてつやむべー。かくまつりびやすくあう

選 靈 式 齋 主 自
らむふらみたまうつーのわざをバ、ひはひぬ、みづの

船 代 捧 持 後 取 二 人 一 人 兼 後
らふなろーろふさくげもち志ざりふあり、らへ師、か兼志

從 喪 事 長 導 其 行
りへふ志あがひもをさみ志るべせさせ、そはおこなひ

總 齋 主 一人 勤 祝
ら、すべて、ひはひぬ、ひやりみてつやむべー。また、のり

詞 更 誦 辭 白 時 隨
やいさらなり、志ぬびごや、たまをほべー。また、やまきに志

兼 祭 略 止 事 得
あがひて、はふりまつりをはぶくも、やむこや、なえざる

喪 家 祓 行 事 兼 祭
なり。さてまた、もやのはらへわざをバ、はふり乃まつり

場 齋 部 急 立 歸 行
やころより、ひはひべ、ひそぎたちちのへりておこあふべ

其 他 總 上 法 同
。そのわら、すべて、かみの乃りにおあどさてまた、お

等 猶 下 齋 主 齋 部 祓
あど志あふて、なかくだれるらひはひぬ、ひはひべら

主 祓 師 手 長 調 饌 師 装 束 兼 總 三 人
へぬ、し、はらへ、てながが、みけし、師、か兼ぬ、すべて、みたりよ

兼 勤 此 時 樂 人 關
てか、祓つやむべー。このやま、らうたびやをバ、かくべー。

○はより此のどかみつまき ○七十五

其法 齋 部 多 事 兼
それのりい、いはひべ、おわくのこやまかぬるのみにて、
異
こやなるこやあし

供物
そなへもの

上同 但 五 臺 盛 供
かみふおあし。たがし、いつらふをりてそあふ

此等 豫 意 得 置 此 外 祭 具
これらがねて、こころえおくべし。こ乃わ、まつりつも

のこえふりや、志も乃かあむまきまきやみ、以へるをみ
條 下 圖 書 卷 言 見

あひせて、さろきふかあへてさだむべし
合 適 宜 定

はふりわざのくり、おわのたかく乃ごやし。そのあのみ、その
華 儀 式 大 略 此 如 其 中 普

つねみこよなるこやぶも、すくあらざれば、ひやわありふ
通 異 少

みあらむおら、うたがハきふもおわあるべし。さるたぐ
見 疑 多

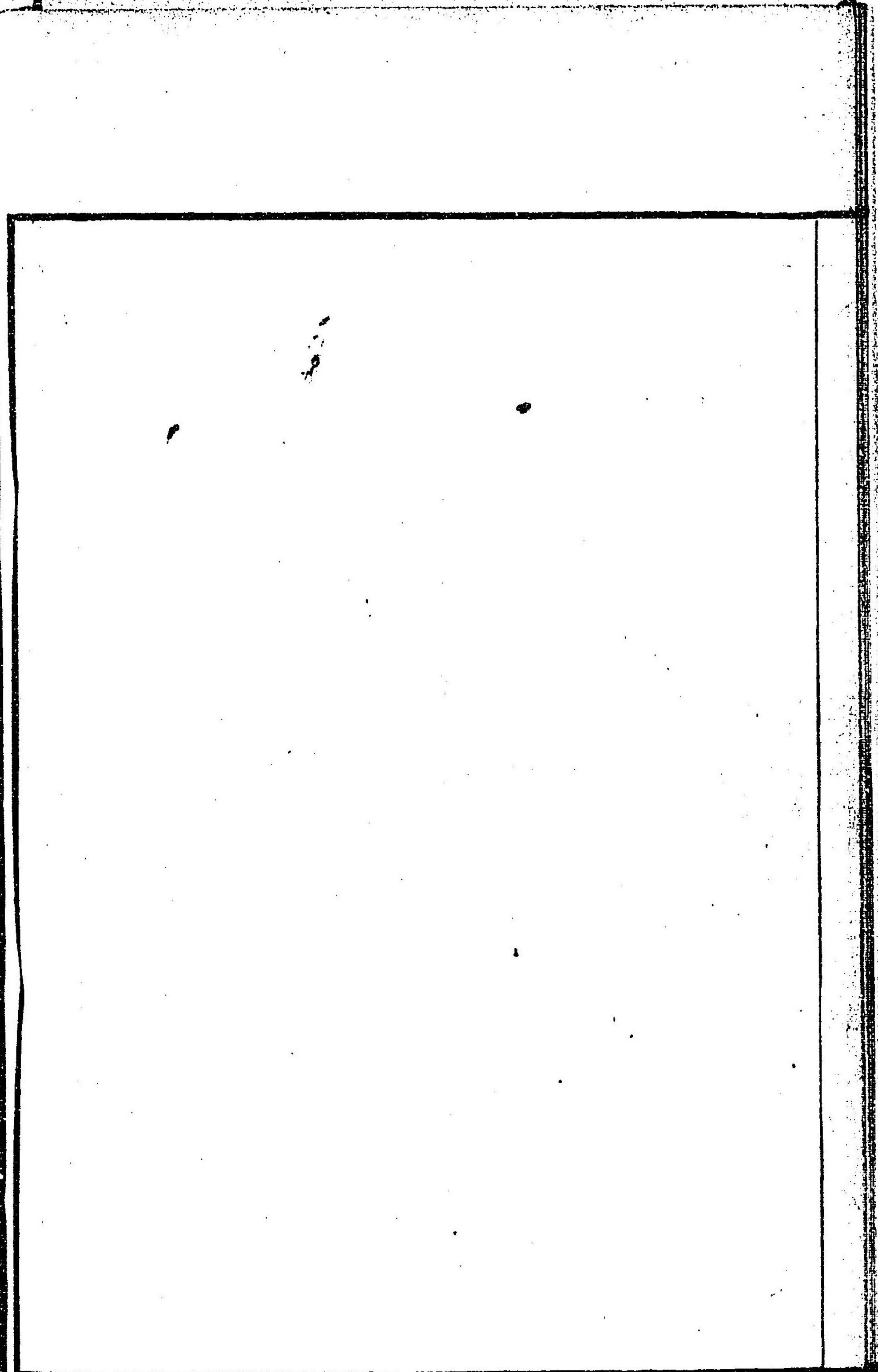
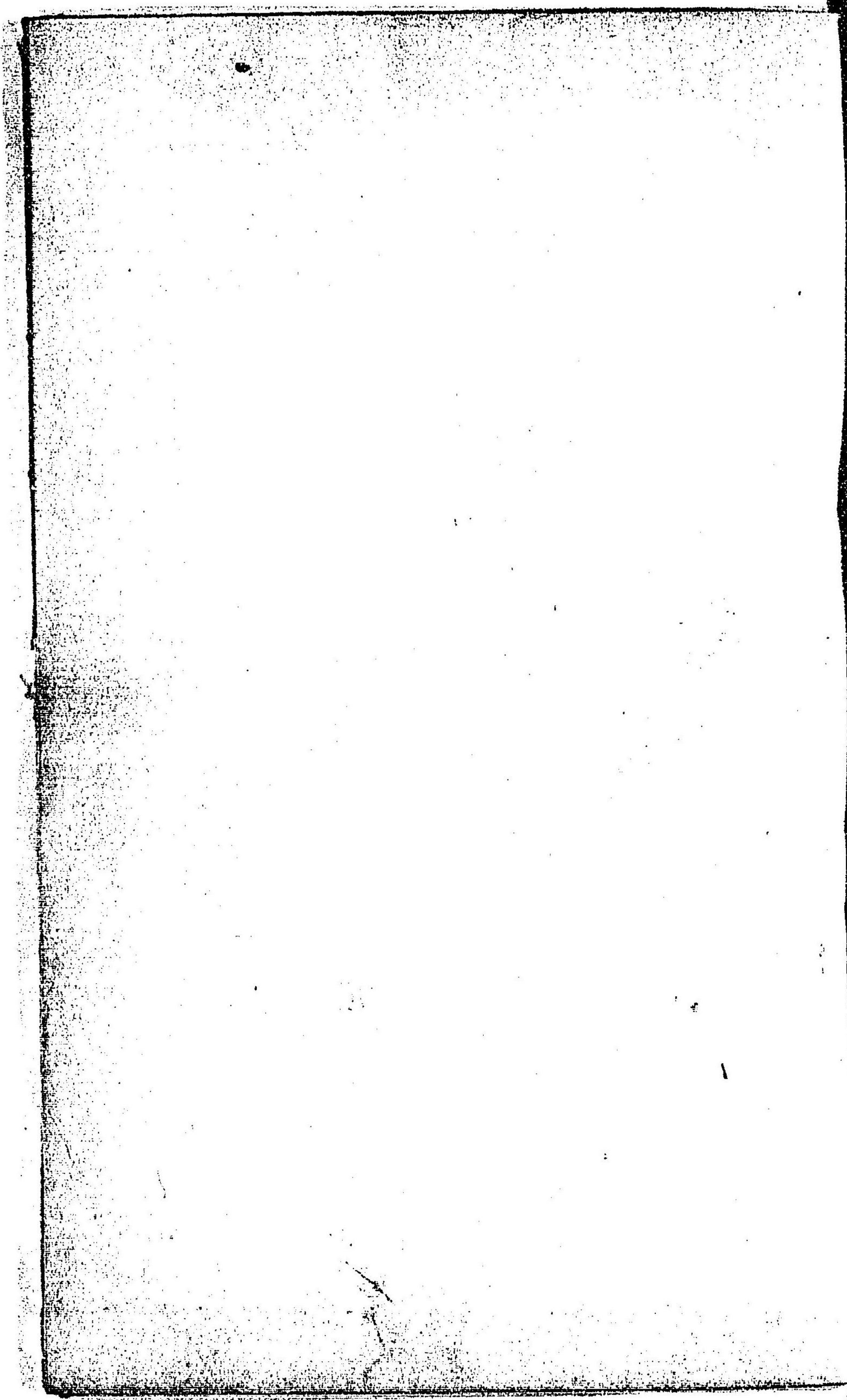
ひをば、つぎ乃まきふや、つて免てわきまふべく。また、みたま
次 卷 取 集 雜

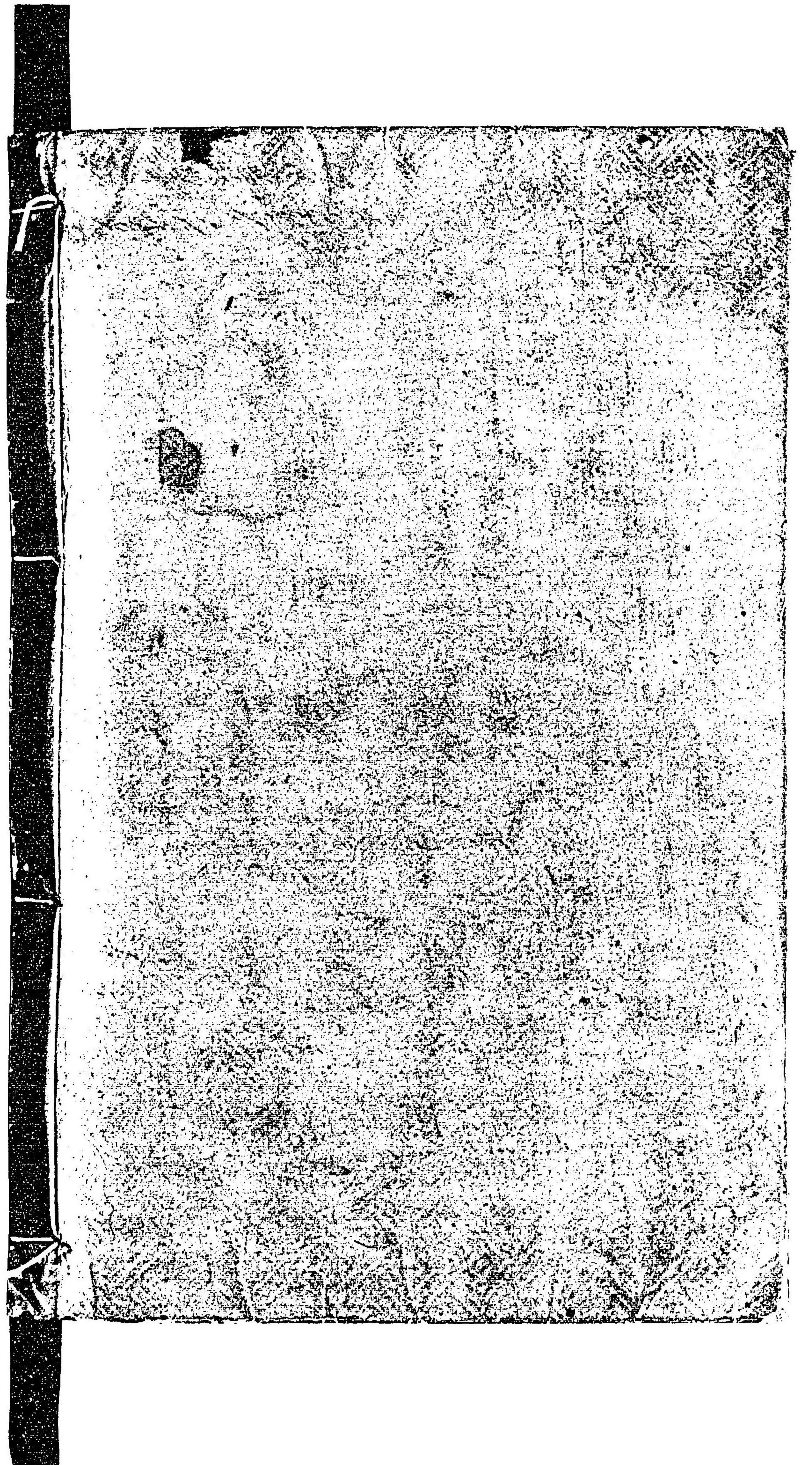
うつりのりい、こやまげく、たわはらぬわざあて、かきも
式 事 繁 容 易 行事 書

えらまざれば、をらつる哉、あしく、わざや、ちつてやを
得 洩 親 作 行 口 授

もて、くはくつあふべし。そのわの、こくみをれあるこやぶ
委 傳 其 他 此 洩 事

もハ、つぎこく、ふ、わきまあるをみてあるべし
次 辨 見 知





9

36

014328-001-4

9-36

葬儀式

稻葉 正邦/著

1冊(上)

M20

ABB-0673

